2000年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
スペイン語Ⅱb	03	通　期	2単位	ゴンザレス　ダリオ GonzalesDario

[講義概要・学習目標]

〔学習目標〕スペイン語の基本的な知識を応用する力を伸ばしコミュニケーションの出来るスペイン語を目指す。
〔講義概要〕本講義では、前年次に継続し基本的な知識を習得しながら、読解力、会話力を身につける。その為には、単語を調べる地道な作業を怠ってはいけない。更に、基本文型を応用する能力を伸ばす為にも語彙数を増やすように努力することは大切である。以上の観点から西和和西1冊になった小辞典の携帯は必要である。又人に聞き取れる声で話すことは会話の基本になるので、学生諸君には、口をしっかり開けるように心掛けて欲しい。
　国際的な感覚や、視野を広める為にもスペインや、中南米諸国の生活習慣や文化についても適宜触れて幅広く学習を進めていきたいと考えている。

[講義計画]

〈前期〉
スペイン語圏の生活習慣を紹介しながら日常会話の表現力をつける。
訪問先での応対、自己紹介の仕方、食事の仕方、フィエスタでの対応
（誕生日・クリスマス）

〈後期〉
音楽、ビデオ、童話、雑誌などの補助教材を活用することにより、スペインや中南米の文化に触れながらヒヤリング力、読解力を身につける。

[成績評価の方法]

定期試験の成績と出席状況との総合評価とする。

[教科書]

プリント
辞書の携帯を必要とする。

[参考文献]

東谷穎人（著）『すぐに役立つ　はじめてのスペイン語』（日本放送出版協会）
宮城　昇（編）『スペイン語．ミニ辞典』（白水社）
ヘレン・ディヴィーズ（著）『絵で見る辞典スペイン語入門』（洋販出版）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
イタリア語Ⅱa	01 02 03	通　期 通　期 通　期	2単位 2単位 2単位	米　山　喜　晟

[講義概要・学習目標]

1．一年次の文法の残りを、最後まで終了する。
2．特に軽視されやすい、命令法、条件法、接続法の用法に習熟してもらう。
3．いろいろな種類の文章を読んでもらい、一通り学んだイタリア語文法の知識を確認しながら、読解力を身につける。

[講義計画]

［前期］
1．文法を最後まで終了する。
2．動詞の変化の記憶の徹底。
3．簡単な文章の訳読練習。

［後期］
1．イタリア語文法の全体像の把握。各法の理解。
2．かなり複雑な文章の読解練習。

[成績評価の方法]

平常に行う数回の小テストと期末の大テストの点数の総合評価。

[教科書]

すでに所持している、一年次に使用した文法教科書。
武田好・横山千里著　『アンディアーモ・イン・イタリア』

[参考文献]

小学館『伊和中辞典』

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
イタリア語Ⅱb	01 02	通　期 通　期	2単位 2単位	川村 ディリヨ クレメンティーナ

[講義概要・学習目標]

。文法，会話また聞き取り

。日常生活ができるようた。

[講義計画]

[成績評価の方法]

出席率70%以上また試験をする

[参考文献]

特別に なし

[教科書]

プリント 配布

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
イタリア語Ⅱb	03	通　期	2単位	鳥 居 正 雄

[講義概要・学習目標]

ＥＣの通貨統合が既に現実のものとなり、域内諸国の経済的結び付きがより一層強固になって、人や物資の交流がより大規模に行われようとしている現在、ヨーロッパ諸語を学ぶ誰の心の中にも、これ以後、単一の言語や文化を学ぶだけで果たして十分なのかという疑念が沸いていることと思う。結論を先に言うなら小生の経験から言ってもそれだけでは不十分だと言えよう。それでは、専門言語以外のどの言語から手をつけようかということになれば、それはイタリア語しかないであろう。ヨーロッパ諸言語の源流であるラテン語の直系の子孫であるイタリア語を学ぶことによって、今日現在でもなお紛れもなくギリシア・ローマ文化そのものであるイタリア文化に触れ、それが自分の専門の言語文化にどのように繋がっているのかについて理解を深めることができれば、そのことは諸君が個々に的確なヨーロッパ観を育むうえで大きく役立つであろうと考える。そのための第一段階として、とりあえず日常生活に必要最低限な範囲の文法知識と、文化についてのある程度の知識が身につくことを目標にしたい。

[講義計画]

基礎的な初級文法は一年間で一通り終わります。発音・文法は理解を深め実力を養ううえで実践が重要なので、演習形式で殆ど毎時間クラス全員に実習してもらうので、出来る限り途切れずに出席することを求めます。文化関係については必要に応じてテープやヴィデオを使って講義します。

一般に言語は、音声学や言語学を専門にする人の場合を除けば、その言語の背景にある文化を知るための手段にすぎず、言語それ自体が目的ではない。したがって、授業に参加する諸君には、漠然とイタリア語がどんな言語か知りたいというだけでも結構ですが、できれば、諸君がイタリア語を通してより深く知りたいと思う、イタリア文化の中の何か具体的な分野や事柄を頭の中にイメージしながら授業に参加することを望みます。

[成績評価の方法]

授業中の実習を重視するので期末の試験５、レポート５の割合で評価します。

[参考文献]

[教科書]

A.Mazzetti, M.Falcinelli, B.Servadio: Qui Italia.(primo livello)

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ロシア語　Ⅱａ		通　期	２単位	国　松　夏　紀

［講義概要・学習目標］

「ロシア語Ｉａ・Ｉｂ」で、文字と発音を含めて、一通りの基礎文法を学んだ諸君を対象とし、ロシア語のいろいろな会話の基礎を練習します。少し間が空いて、もう忘れたこともあるでしょうし、まだ充分学んでいなかったこともあるでしょう。それらを復習し、補いながら、テープなどで、音を聞き、自分でも積極的に会話に参加しましょう。
地道に努力を重ねると、ロシア語とその会話を通して、思わぬ豊かなロシア世界が眼前に開けることでしょう。

［講義計画］

まず前年度（初級）の復習・補習から始めます。1999年度使用教科書『ロシア語へのパスポート』を忘れずに持参して下さい。時間の関係で充分学習できなかったところを大急ぎで仕上げることにしましょう。
その上で、ロシア語会話の基礎練習に取りかかります。生活の様々な場面での生き生きとした応答を体験することにしましょう。
本年（2000年）　度の教科書は全１７課で構成されています。１回の講義につき１課を仕上げることを目標に授業をすすめていきます。

［成績評価の方法］

必ず予習をして、出席すること。やむを得ず予習が間に合わなくとも、とにかく教室に出てくること。その「平常点」と、前期末・学年末の試験により、総合的に評価します。

［教科書］

米重文樹、ピョートル・トマルキン著『話すロシア語入門』白水社刊

［参考文献］

もう辞書も持っていると思いますが、最初の時間に改めて辞書に関して案内します。また、ロシア語からさらに広くロシア関係の話題も随時提供するとともに、「参考文献」も紹介するつもりです。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ロシア語Ⅱｂ		通　期	２単位	杉　野　ゆ　り

［講義概要・学習目標］

前年度学んだ初級文法より詳しく体系的な文法を勉強しながら、読解と作文の確実な力を付けるのが目的です。しっかりと身に付いた読解と作文の力は会話の場面に於いてもその真価を発揮してくれるはずです。
テキストを繰り返し音読し、重要な文型は覚えましょう。
辞書を引いて怠りなく予習すること。一生懸命勉強すれば、ロシア語はあなたの生涯の友人となるでしょう。

［講義計画］

教科書は１０課からなります。前期で５課、後期で残り５課を勉強する予定です。

［成績評価の方法］

平常点（出席回数、小テストなど）と前後期の定期試験の点数によって評価します。

［教科書］

戸辺又方編「１年生のロシア語」（白水社）

［参考文献］

露和辞典必携

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
中国語Ⅱa 中国語Ⅱb	０１ ０１	通　期 通　期	２単位 ２単位	芦　田　茂　幸

[講義概要・学習目標]

中国語Ⅰで会話文を通じて基礎的な中国語を修得し終えた後、更に一歩進めて、中国人の日常生活に関わる文章を対象にして、文化、生活、慣習、言葉の表現など様々な面での目覚ましい変化を読み取らせ、読解力を高め、朗読中心の反復練習を行い、練習問題に取り組ませ、聞き取りの力をも養い、将来活用出来るまでにもってゆきたい。またテキストを通じても中国及び中国人に親しみを覚えてくれれば幸甚である。

尚、テキストは同一テキストをａ、ｂ共通で使用する。既に中国語Ⅱを履修した学生も再度随意科目として履修出来るよう、テキストは毎年変えているので積極的に参加してほしい。

辞書は必ず購入しておくこと

[講義計画]

〈前期〉声調・発音を再確認し、１課に平均５講時を当て、暗誦中心に反復練習し、併せ中国語文法の基本的な構文を習得し、２課毎に小テストを行い、基礎を確実なものにしたい。
テキスト　１課～６課

〈後期〉テキストを通じて中国の現況にも目を向け、朗読中心の反復練習を行い、１課に平均５講時を当て、２課毎に小テストを行い、修得を確実なものとしたい。
テキスト　７課～１２課

[成績評価の方法]

前期・後期とも小テストを３回行い、その平均点に平常成績（朗読・作文・暗誦・書き取り、及　び出席状況）を加味して総合評価を行う。

[教科書]

山下輝共著 中国語中級読本「今日の中国トピック１２」（金星堂）

[参考文献]

香坂順一編著「簡約現代中国語辞典」Ｂ６変型判［光生館］3,500円
蘇 文山 監修「アクセス中日辞典」　四六変型判［三修社］3,200円

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
中国語Ⅱa 中国語Ⅱb	０２ ０２	通　期 通　期	２単位 ２単位	何（カ）　為（イ）

[講義概要・学習目標]

一年の時に習った事を復習しながら、新しく出現する文法事項、表現文型を学び、より高度な会話力と読解力を身につけることが目標
実際練習を中心に適宜文法等の説明を加える

[講義計画]

原則的に半期はテキストの半分まで進み、一年間で一冊を終了する。

[成績評価の方法]

テスト及び平常点（出席、暗誦、授業態度）で総合評価する

[教科書]

守屋宏則著『中国ひとくちことば』（朝日出版社）

[参考文献]

上野恵司著『中国語辞典』白帝社
上野恵司著『標準 日中辞典』白帝社

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
中国語Ⅱa 中国語Ⅱb	03 03	通期 通期	2単位 2単位	カ フカ 何 涪嘉

[講義概要・学習目標]

中国語Ⅰで基本を学んだ学生を対象に会話などの総合的な能力を高めるのが狙いです。教科書は身近な話題で段階を追って話せるように工夫しています。また、必要に応じて随時文法事項の説明を加えます。

[講義計画]

前期
発音の復習
第一～第六課

後期
第七課～第十五課

[成績評価の方法]

期末試験に出席と平常点を加味して総合評価する。

[教科書]

相原茂・玄宜青著「中国語スピーキング倶楽部」（朝日出版社）

[参考文献]

辞書必携

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
中国語Ⅱa 中国語Ⅱb	04 04	通期 通期	2単位 2単位	ジョ コクギョク 徐 国玉

[講義概要・学習目標]

『生活中国語』はまず生活面を大まかに学習、日常、交際などの項目、計60課にわけ、主文として少し長い文例を示し、この主文に関連した語句の説明、会話、作文の問題と回答、そして場合によつては、その他と続きます。

中国語Ⅰで学んだ初級文法を復習しつつ、読解力と運用力を一層高めることが目標である。

[講義計画]

【前期】第1課ー第16課
【後期】第17課ー第40課

[成績評価の方法]

前期・後期試験の成績及ぶ平常点で総合評価です。

[教科書]

『生活中国語』　（張乃方・長谷川寛著　評論社）

[参考文献]

『精選日中・中日辞典』（東方書店）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
中国語Ⅱa 中国語Ⅱb	05 05	通期 通期	2単位 2単位	林（リン） 宏作（コウサク）

[講義概要・学習目標]

中国語Ⅰで修得した発音と語法をふまえて、語彙をふやし、読解力のスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。また毎課の後に附している練習問題は宿題として必ず提出すること。出席状況および宿題の提出をもって平常点とする。

[講義計画]

〈前期〉復習編(一)～(五)及び応用編第1課～第5課

〈後期〉応用編第6課～第14課

[成績評価の方法]

平常点と前・後期の試験による。

[教科書]

丁秀山・坂井田ひとみ(共著)「日常的対話」(金星堂)

[参考文献]

香坂順一(編)「簡約 現代中国語辞典」

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
朝鮮語Ⅱa		通期	2単位	徳成 外志子

[講義概要・学習目標]

朝鮮語初級修了者を対象に、テキストに沿って、より上の段階の文法、文型の学習を系統的に進める。併せて、簡単な朝鮮語の読み物、民話、童話から、韓国の歌、新聞雑誌などまで多様な文章を教材に取り上げ、読書能力を高めると同時に、韓国の生活や風俗、文化の一端が理解できるようにしたい。

また、朝鮮語で自己紹介をしたり簡単な日記や手紙を書いたりして、学んだ語彙や文法の範囲で自由な作文を行い、朝鮮語で考え、朝鮮語で自己の意思を表現する基礎的練習を行う。

ビデオやテープを使って聞き取り能力を養い、授業はできるだけ朝鮮語で対話を行いながら進め、簡単な日常会話ができるようにもしたい。授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、朝鮮民主主義人民共和国で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきたい。

[講義計画]

前期：1．1年次のテキストの残り
2．テキストの7課本文から、初級の発音、文法の復習をかねて行い、13課当たりまで進む。
3．簡単な副教材プリントや歌、ビデオなど。
4．初歩的な作文と会話。

後期：1．テキスト14課から20課あたりまで。
2．やや高度な内容の副教材プリントや歌、ビデオなど。
3．作文や実用会話。

[成績評価の方法]

前・後期末に行うテストの比重が最も高い（60％）が、それに出席（30％）や普段の課題への取り組み（10％）を総合的に評価する。語学は特に、出席と普段の授業の予習・復習が大切である。

[教科書]

李応寿著『やさしい韓国語講座』（語研）

[参考文献]

辞書等は授業で説明する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
朝鮮語IIｂ		通　期	2単位	青野正明

［講義概要・学習目標］

辞書を引いてより高度な文章の読解と作文ができることを目指す。１年生で学んだ基礎力をもとに、文法をしっかり学びながら徐々に難しい文章の読解に進む。
この時期は、日本語の文法と酷似していることがわかっているため、高度な文法の理解も容易であろう。
１年間を終えた段階では、辞書を引きながら簡単な論説文や小説を読んだり、韓国の友人に手紙を書くこともできるだろう。

［講義計画］

前期：第１課～第９課

後期：第10課～第15課

時々、歌を聞いたりビデオを見たり、また副教材を選んで翻訳することも計画している。

［成績評価の方法］

出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。

［教科書］

油谷幸利『ハングル初級』大修館書店、1993年

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本語IIａ		通　期	2単位	有川康二

［講義概要・学習目標］

大学の講義をノートを取りながら聴き、意見を述べ、教科書や参考書として専門書を読み、レポートを書く．．．外国語でこれらの作業を行うには高度の外国語運用能力を必要とする。このクラスでは特に、大学の講義を受ける上で必要な日本語の読解力に焦点を絞って訓練を行う。

［講義計画］

＜前期＞＜後期＞
内容に関する質疑応答を通して読解作業を行う。また、毎回、読解材料の中の重要なパターンを使用した作文の宿題を課す。

［成績評価の方法］

出席・筆記試験

［教科書］

読解資料はこちらで用意する。

［参考文献］

辞書を常時携帯すること。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本語Ⅱb		通　期	2単位	友　沢　昭　江

[講義概要・学習目標]

大学に入学して一年が過ぎて、日本語ですべてのコミュニケーションを行うことのむずかしさを十分自覚したことと思います。日本語能力を高めるだけでは解決できない問題もありますが、やはり実践的な言語能力を養う努力は続けていかなければなりません。

この授業では、大学生に求められる日本語能力をさらに強化するためのさまざまな活動を行います。新聞の論説記事や、専門的な論文等を、批判的に読み、意見を文章にまとめ、発表するという活動を中心に行います。また、日本語教育に関心のある日本人学生にも、授業に参加してもらい、共同プロジェクトも行う予定です。自分に関心のあるテーマを設定し、共同で作業を進める中でお互いのの考えかたや、勉強のしかたなどを知る機会にもなります。プロジェクトの成果は、最後にまとめて発表し、他のグループとの相互評価を行います。

[講義計画]

授業は年間を通じて、新聞記事や論文を読み、理解し、議論し、自分の意見を文章にすることを中心に行います。後半には、日本人学生とのプロジェクトを始め、適宜その進行状況の報告を行います。

[成績評価の方法]

毎回の授業で出される課題に加えて、プロジェクトの成果も成績の対象となります。もちろん出席は最重要な要素です。

[教科書]

教員が準備しますので、特に指定はしません。ただし、自分に一番使いやすい辞書は毎回必ず持参してください。

[参考文献]

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
教育原理　Ⅰ	０１ ０２	前期 前期	２単位 ２単位	竹　中　暉　雄

［講義概要・学習目標］

「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育の本質及び目的に関する事項」を内容とする。

これまで学校教育だけで１２年間以上も教育を受けてきながら、いざ「教育とは何か」と改まって問われると極めて答えにくいものである。教育について考えるためには、人間について考えることから始めなくてはならない。なぜ人間だけ長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのだろうか。このような疑問に答えるためには、いま急速な発展を遂げつつある脳科学の助けが不可欠となる。

その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育目的の問題である。教育の目的は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、そのさいにおいても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。

教育学の学習において留意しておいてほしいことは、いわゆる決まりきった「正解」というものは存在しないということである。神秘性に満ちた人間についての学問なので、仕方のないことである。講義内容および各自が独自に仕入れた知識を比較検討して、自分自身の教育論を持つようにしてほしい。質問・意見は質問票ないしE-mail（takenaka@andrew.ac.jp）で受けつけます。

［講義計画］

教育の本質
１　教育の定義
２　人間の教育必要性と教育可能性
３　我・汝関係と教育関係
４　教師と教育的タクト

人間の脳と教育
５　人間の脳の特殊性
６　遺伝と環境の問題
７　生涯学習の必要性と可能性

教育理念・目的の思想史
８　近代教育論の始まり
　　「合自然」の教育論
９　「反合自然」の教育論
１０　児童中心主義の意義
１１　実存主義からの問題提起
１２　「個」か「集団」か

［成績評価の方法］

数回の授業コメントカードおよび期末の論述試験による。

［教科書］

竹中・中山・宮野・徳永（共著）『時代と向き合う教育学』ナカニシヤ出版
１９９７年

［参考文献］

テキストに記載されている引用文献・参考文献

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
教育原理　Ⅱ	０１ ０２	後期 後期	２単位 ２単位	竹　中　暉　雄

［講義概要・学習目標］

「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育に関する社会的・制度的な問題」を内容とする。

もともと教育とは個人的で私的な営みであるが、近代公教育は法令に基づき国家的制度として行なわれる。多額の公費を使用して子どもたちの学習権を平等に保障し、そのことによって社会有用の人材をつくろうとするのである。しかしその結果、個人の自由や個性が無視されてしまうことも起こってしまう。登校拒否という現象は、公教育制度について根本的な反省を迫るものである。しかしだからといって、学校制度というものを完全に否定することが正しいとも思えない。なぜ現在の学校教育は拒否されるのか、まずそこに内包される問題点について認識したうえでないと解決策は見つけられないであろう。

学校の教師も法令によって制度的に守られている反面、さまざまな制約をうける存在でもある。学校の教師になるということはどういうことなのか、いろいろな具体例を出しながら考えていきたい。

学校および教師の仕事の現実を知るためにビデオを２回見て、感想意見をそれぞれ発表していただくことも計画している。いずれにしても現実的な問題ばかりなので、質問・意見票をどんどん提出してほしい。E-mailも受けつけています（takenaka@andrew.ac.jp）。

［講義計画］

法令の中の教育
１　義務教育と登校拒否
２　家庭での就学
３　進級・卒業の問題
４　学習指導要録の問題
５　指導要録の問題

学校教師という職業
６　教職の性質
７　研修義務
８　経済的待遇
９　部活動指導
１０　教員定数
１１　教師と体罰

［成績評価の方法］

数回の授業コメントカードおよび期末の論述試験による。

［教科書］

竹中・中山・宮野・徳永（共著）『時代と向き合う教育学』ナカニシヤ出版
１９９７年

［参考文献］

テキストに記載されている引用文献・参考文献

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
教育心理学	０１ ０２	前　期 前　期	2単位 2単位	冷　水　啓　子

［講義概要・学習目標］

近年，学校では，不登校やいじめに加え，授業中私語に興じて教師の話を聞かない，無断で立ち歩いたり，ふざけ合ったりして授業に集中できない，我慢ができず，些細なことですぐに切れる，といった児童・生徒の行動傾向が問題視されている。では，このように日常的に起こりうる困難な事態に対し，教師はどのように対処すればよいであろうか。適切に対応するためには，子どもの心理発達の様相や一般的な教授・学習方法を熟知しているうえに，さまざまな発達障害や問題行動への臨床援助に関する基礎的知識やセンスをも併せ持つ必要があろう。すなわち，平常の授業を円滑に運営するだけでなく，問題の発生を未然に防いだり，起こった問題の原因を究明して解決へ導くための基礎的知識や技能，柔軟な判断能力や態度が必要とされるのである。

そこで，この「教育心理学」では，「幼児，児童および生徒の心身の発達および学習の過程」に関する基礎的理論と教育実践について検討し，実践的指導力を身につけるための基礎作りを目指す。講義に関連する資料は，コンピュータ，ＯＨＣ，ＶＴＲ，印刷物などにより適宜提供する。

受講生の講義への主体的・積極的な参加を期待している。

［講義計画］

1　発達に関する基礎理論と教育実践
　1）生涯発達と発達理論
　2）乳幼児期の発達
　3）発達障害とその臨床援助
　4）児童期・思春期の発達
　5）児童期・思春期の心理障害と臨床援助
　6）学校臨床
　7）青年期の発達
　8）青年期の心理障害と臨床援助
2　学習に関する基礎理論
　1）学習の基礎
　2）学習への動機づけ
3　全体のまとめ

〔但し，講義の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

［成績評価の方法］

出席を重視する。学期末に試験を実施する。必要に応じてレポート提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

［教科書］

大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ―発達と学習指導の心理学―』東京大学出版会
下山春彦（編）『教育心理学Ⅱ―発達と臨床援助の心理学―』東京大学出版会

［参考文献］

藤永保（著）『幼児教育を考える』（岩波新書）

波多野誼余夫・稲垣佳世子（共著）
『人はいかに学ぶか―日常的認知の世界―』（中公新書）

井上健治（著）『子どもの発達と環境』（東京大学出版会）

高橋恵子・波多野誼余夫（共著）『生涯発達の心理学』（岩波新書）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
教育方法学	０１ ０２	後　期 後　期	2単位 2単位	冷　水　啓　子

［講義概要・学習目標］

ある概念や問題の解き方を覚える場合，なぜそうなのか，なぜそうするのか，という意味を納得したうえで覚えるときと，ただその内容や手順だけを機械的に覚えるときとでは，問題そのものに対する理解の水準が異なってくる。子どもにとって楽しくてわかりやすい学習とは，前者の場合であろう。

そこで，この「教育方法学」では，「教育の方法および技術」に関する基礎的理論と教育実践への応用について検討し，実践的指導力を身につけるための基礎作りを目指す。具体的には，はじめに，子どもの理解を促進する効果的な教授・学習方法や教育メディアにどのようなものがあるか，それらの特徴や利用の仕方を考察する。つぎに，それぞれの子どもの年齢段階や個性に即した学習過程を支援するためのコンピュータの実践的利用について，コンピュータ実習を通じて体験的に習得する。講義や実習に関連する資料は，コンピュータ，ＯＨＣ，ＶＴＲ，印刷物などにより適宜提供する。

受講生の講義や実習への主体的・積極的な参加を期待している。

［講義計画］

1　学習と認知
　1）科学的認識と社会的認識
　2）記憶と文章理解
　3）推理と問題解決
2　教授・学習過程
　1）個人差と学習指導法
　2）授業における教授・学習過程
　3）コンピュータによる学習指導
　4）教育測定と評価
3　コンピュータ実習
　1）電子メールやインターネットの利用
　2）テキスト教材の作成
4　全体のまとめ

〔但し，講義や実習の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

［成績評価の方法］

出席および講義や実習への参加を重視する。学期末に，作成したテキスト教材およびレポート提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

［教科書］

大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ―発達と学習指導の心理学―』東京大学出版会
桃山学院大学計算機センター（編）
『桃山学院大学計算機センター　ユーザーズガイド』

［参考文献］

赤堀侃司（著）『学校教育とコンピュータ』（ＮＨＫブックス）

波多野誼余夫・稲垣佳世子（共著）
『人はいかに学ぶか――日常的認知の世界』（中公新書）

水越敏行・佐伯胖（編）『変わるメディアと教育のありかた』（ミネルヴァ書房）

高島秀之（編）『マルチメディア教育』（有斐閣選書）

吉田甫・栗山和広（編著）『教室でどう教えるかどう学ぶか』（北大路書房）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会科教育法	０１	前　　期	２単位	飯　島　敏　文

［講義概要・学習目標］

社会科は第２次大戦後にはじめて登場した教科です。この半世紀、社会科のあり方については、さまざまな議論が戦わされてきました。
本授業では、社会科の成立、成立期社会科の意義、さらにはその後の議論を考えることを通して、現代社会科の可能性と限界を探ることとします。

［講義計画］

1　社会科成立前史
2　社会科の成立
3　成立期社会科の特徴
4　成立期社会科の意義
5　成立期社会科の実践
6　成立期社会科の課題
7　社会科学習指導要領変遷史
8　授業とは何か
9　学習指導案の作成

［成績評価の方法］

出席回数、授業内レポートの内容、期末試験の成績を総合的に評価する。

［参考文献］

授業内でその都度紹介する

［教科書］

中学校学習指導要領（必須文献）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会科教育法	０２	前期	２単位	林　陸雄

［講義概要・学習目標］

社会科とは、暗記科目あるいは余談の多いおもしろい科目と見られがちである。しかし、本来の目標は中学生の社会認識能力を育成することにある。中学生も、一人の生活者として現実社会に生きている。その彼らがとらえている社会像と真っ向から切り結び合える授業を、どのように組み立て実践するのか。
社会科教育の目標と内容、授業実践に必要な基礎・基本について学習する。限られた授業回数でこれらの課題を遂行するのは困難である。それゆえ後期の公民科教育法と併せて履修すること。公民科では、前期で学習した基礎基本と公民科の内容を踏まえて、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。
前期の理論と後期の実際、この両者でもって社会科系教科の教育法学習がまとまりをなす。

［講義計画］

1．社会科教育の意義
2．社会科の目標と教科構造
3．社会科の教育課程
4．社会科の指導計画
5．学習指導と能力育成
6．学習指導の形態
7．学習資料の活用
8．学習指導の評価
9．教材研究と実地授業
10．地理的内容の授業
11．歴史的内容の授業
12．公民的内容の授業
13．まとめ.

［成績評価の方法］
出席回数、授業内の小レポート、期末考査の結果を総合的に評価して行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価しない。

［参考文献］

授業の中で適宜紹介する。

［教科書］
森　秀夫　著
『中等　社会諸教科教育法』　学芸図書株式会社刊

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
公民科教育法	０１	後　期	２単位	飯　島　敏　文

［講義概要・学習目標］

社会科は第２次大戦後にはじめて登場した教科です。この半世紀、社会科のあり方については、さまざまな議論が戦わされてきました。平成元年版の学習指導要領で新たに「公民科」が設けられましたが、本授業では、公民科の成立、公民科の特徴、公民科の意義などを明らかにした上で、学習指導案の作成に取り組みます。

［講義計画］
1　公民科成立前史
2　公民科科の成立
3　公民科の特徴
4　公民科の意義
5　公民科社会科の実践
6　公民科の課題
7　公民科学習指案の作成

［成績評価の方法］

出席回数、授業内レポート、期末試験の成績を総合的に評価する

［教科書］

高等学校学習指導要領

［参考文献］

授業中にその都度紹介する

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
公民科教育法	０２	後期	２単位	林　陸雄

［講義概要・学習目標］

前期の社会科教育法で学習した基礎基本に加えて、高等学校公民科の内容について学習する。それらを踏まえて、年間計画の建て方、学習指導案の作成方法、模擬授業行うなど体験的に学習する。
それゆえ前期の社会科教育法と併せて履修すること。前期の理論と後期の実際、この両者でもって社会科系教科の教育法学習がまとまりをなす。
前期の社会科教育法を履修していないと、教育計画及び学習指導案の作成についての基礎的認識が不足し、模擬授業を行えなくなるので、社会科教育法を必ず履修しておくこと。
限られた授業回数なので集約的に授業を展開する。全出席を守り、遅刻早退をしないこと。

［講義計画］

1. 公民科の目標と組織
2. 現代社会の教育課程
3. 倫理の教育課程
4. 政治・経済の教育課程
5. 倫理の授業例
6. 現代社会の授業例
7. 年間計画の建て方
8. 学習指導案の作成
9. マイクロ・ティーチング①
10. マイクロ・ティーチング②
11. マイクロ・ティーチング③
12. マイクロ・ティーチング④
13. 教育実習とその評価

［成績評価の方法］
出席回数、授業内での小レポート、期末考査の結果を総合して行う。
但し、2/3以上の出席がなければ評価しない。

［教科書］
前期の社会科教育法で使用した
森　　秀夫　著
『中等　社会諸教科教育法』
学芸図書株式会社
を用いる。

［参考文献］

授業の中で、適宜紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地理歴史科教育法	０１	前　期	2単位	野尻　亘

［講義概要・学習目標］

学校教育現場では、いじめ・不登校・校内暴力・非行・差別などの諸問題に苦悩している。このような状況の中で、「地理歴史科」の教育は、どのようにあるべきか。

単に知識の伝達に留まらず、新しい学力観をふまえた上で、人権教育・平和教育・環境教育・開発教育・国際理解教育といったテーマについて、地理歴史教育の再構築を目指すこととする。

この授業は高校地理歴史科教員免許取得の必修科目です。そのため模擬授業や討論など演習形式を採用して行います。教員免許取得の希望のない学生が履修しても苦痛となります。そのため、よく注意して履修手続きをしてください。

［講義計画］

〈前期〉1.学校における教科教育　陶冶と訓育
2.地理歴史科の目標
3.地理歴史科のカリキュラム構成
4.教育実習と授業実践
5.授業指導案の作成
6.地理歴史教育と人権学習･同和教育の実践
7.学校地理教育・歴史教育の目標と課題
8.生涯学習社会と地理歴史教育

［成績評価の方法］

指定した書式にもとづく「授業指導案」をレポートとして作成し提出する。このことを単位認定の基礎条件とする。

［教科書］

文部省『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』実教出版

［参考文献］

文部省『高等学校学習指導要領』大蔵省印刷局
井原政純『社会・地理・公民科基礎論』多賀出版
永井滋郎・平田嘉三『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地理歴史科教育法	０２	９月集中	２単位	古　田　　昇

［講義概要・学習目標］

高等学校学習指導要領の解説、指導案の作成方法の解説、指導案作成、教材研究の方法、教科指導法、授業実習（代表者）等を行い、教職員としての資質の基本をを育成することを目指したい。

本講義の受講生全員が、教員免許状の取得希望者であり、その多くが教育関係の社会活動に携わることをふまえ、単なる一方通行の講義に終わることなく、何名かの受講生に実習体験をしてもらう予定である。またその他の学生については、仲間の体験を自分のものとして共有できるような態度で受講されることを希望する。

高校では、教えることになる地理・日本史・世界史の３科目のもつ性格、それぞれの専攻分野の違いに起因するいろいろな問題点がある。講義では、これのいくつかの事例を紹介し、より実感をもって地理歴史教育に関わる心構えをつくる一助となることを目指したい。

また実務では、この３科目すべてを授業しなければならないことを前提に、その点をふまえて専門と異なる科目を担当した場合の留意点などをふまえて解説をしてみたい。

［講義計画］

①中学校・高等学校における教科指導の具体例の紹介と問題点

②教科指導の方法と具体例（１）（授業に関するもの）

③教科指導の方法と具体例（２）（事前・事後指導、準備など）

④学習指導案の作成

⑤模擬授業実習と評価

⑥まとめ

①～③を適宜組み合わせ、また視聴覚教材を活用し、内容とともに使用法と問題点をあわせて指摘したい。

指導案は、大学のコンピューターソフトのワードプロセッサや表計算ソフトを実際に使用しての作成（使用法は講義中に指導）をめざす。

［成績評価の方法］

講義全時間の積極的な受講はいうまでもなく、全員に学習指導案の提出をもとめる。評価はそれらを総合して行う。実際に模擬授業を体験していただいた受講生はその熱意を含めた評価を考えている。

［教科書］

とくに使用しない。

［参考文献］

高等学校学習指導要領解説「地歴編」文部省　実教出版社。

講義中に随時紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英語科教育法		通　期	4 単位	島　田　勝　正

【講義概要・学習目標】
英語教師志望者を対象とする。英語科教育の基礎理論を概観するとともに、その理論の教育実践への適用を考察する。授業内容は第二言語習得論、英語教育目標論、指導課程論(シラバス論、授業計画)、指導方法論、指導技術論(4技能、文法、語彙)教材論、測定評価論、学習者論、教師論と多岐にわたる。単に理論の紹介に終始せず明日の教育実践を射程に入れたワークショップを展開する。その中で受講者は学習の促進としての指導は如何にあるべきかを探求することになる。その体験は授業案作成、マイクロティーチングとして具現化される。問題意識をもって授業に臨んでほしいので、毎回「課題」提出を課す。課された分担作業は責任をもって果たすこと。

【成績評価の方法】
＊得点配分は以下の通り。(1)課題提出=各自コピーをとってオリジナルを提出　1回3点×12回=36点(遅刻=減点0.5点)(2)レポート24点(3)定期試験40点
＊授業時間の3分の1(8回)を越えて欠席した場合、定期試験を無断で欠席した場合、レポートを提出しない場合は総合得点が基準点(60点)に到達していたとしても単位を認定しない。

【教科書】
島田勝正(編著) *Methods of Teaching English as a Foreign Language: Testing of Teaching (Third Edition)* Reading Packet. 2000

【参考文献】
1. Richards, J., Platt, J. and H. Platt (eds.): *Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics, New Edition* Longman.1992
2.青木(編)『英語科教育の理論と実践《理論編》《学習指導編》』(現代教育社)
3.片山、遠藤、佐々木、松村(編)『改訂版　新・英語科教育の研究』(大修館書店)
4.青木(編)『英語授業実例事典 I, II』(大修館書店)
5.青木(編著)『英語授業の組立て』(開隆堂)
6.山田、望月(編)『私の英語授業』(大修館書店)

【講義計画】
＜前期＞
1.ガイダンス(英語教育学)
2.教授・学習・評価(教授の役割)
3.第二言語習得論1(習慣形成理論と生得理論)
4.第二言語習得論2(学習転移)
5.第二言語習得論3(誤答分析)
6.第二言語習得論4(インプット仮説)
7.第二言語習得論5(形式教授の役割)
8.言語能力の分類
9.文法教授(意識化活動)
10.第二言語習得論6(有標性理論、教授可能性理論、媒介変数再設定)
11.目標論1(コミュニケーション能力)
12.目標論2(学習指導要領)
13.学習スタイル、学習方略
14.指導方法論(各種指導法概観)

＜後期＞
1.コミュニカティブアプローチ1(機能シラバス、文機能分析)
2.コミュニカティブアプローチ2(教授法)
3.スピーキング(教材評価)
4.リスニング(背景知識の活性化)
5.リーディング(発問の種類と方法)
6.ライティング(評価観点)、語彙(記憶術)
7.授業案作成、授業観察、授業分析
8.テスティング1(妥当性、信頼性, 実用性)
9.テスティング2(多肢選択型テスト、クローズテスト、コミュニカティブテスト)
10.テスティング3(項目分析, 教育統計)
11.マイクロティーチング1
12.マイクロティーチング2
13.マイクロティーチング3
14.定期試験

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商業科教育法		前　期	2 単位	松　原　　勇

[講義概要・学習目標]

激動の産業社会の中、商業科教員を目指す学生を対象にした高等学校教員免許取得のための必修科目である。

現代の商業教育は、グローバル・スタンダードを基に国際化・情報化に対応できる人材の育成が急務である。近年、特に優れた職業倫理を身につけ、高度な専門的な知識・技術等の習得が不可欠である。学習指導要領では、産業社会の大きな変化に適応できる自己教育力の育成・心豊かな人間の育成等を目標にしている。

その趣旨を踏まえ、将来教育に携わる者は、教育理念のもと、商業教育の本質に立脚した姿勢と自覚をもって臨まなくてはならない。本講は、教育者としての人間力の育成と共に産業社会の現状と将来の商業教育を展望しつつ、教育上の本筋を究明する。特に、年間授業計画、毎時の学習指導案の作成、学習指導法、模擬授業など教育者が修得すべき方法論を重点的に網羅して講義する。

[講義計画]

（前期）
1 商業教育の意義と目的
2 現在の商業教育
3 教育課程の編成
4 学習指導法 （模擬授業の展開）
5 年間授業計画と教育評価
6 今後の商業教育の展望等

[成績評価の方法]

主として、出席を厳しく重視して評価する。なお、模擬授業の実践面の評価、併せて、学年末試験なども勘案のうえ、総合評価とする。

[教科書]

松　原　勇(編著)「商 業 科 教 育 法」（ぎょうせい）

[参考文献]

文部省（編）「高等学校学習指導要領」（商業編）（大日本図書）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
道徳教育の研究		前　期	2単位	徳　永　正　直

[講義概要・学習目標]

近年になって子どもの問題行動が変質し、「いい子が危ない」とか、「普通の子がどうして」等というような悲嘆や当惑が、教育関係者の間でもしばしば聞かれるようになった。もちろん、子どもの問題は大人の問題でもあるが、1989年以降これまで以上に道徳教育を充実させることで、教育荒廃の現実に対応しようというのである。だが、その場合の道徳教育の内容と方法が問題になるだろう。

そこで現状の子どもの問題行動の背景と原因の考察から出発して、学校教育の範囲内での道徳教育、とりわけ道徳授業の問題点と理念を検討する。

道徳教育に対する各自の見解を確立することを目的としたい。

[講義計画]

§1．子どもの問題行動を考える。

1980年以後に注目された未成年者による犯罪や、「いじめ」「不登校」などの問題を検討し、その背景と原因を考える。その際、アリス・ミラーの反教育学の立場を一つの手がかりとする。

§2．道徳教育の課題

道徳とは何か？

慣習的道徳から反省的道徳へ

社会規範の内面化と自主的主体的な道徳的判断力の育成

§3．子どもの人権と教師の懲戒権

人権論の限界と望ましい教育的な罰の在り方を考える。

§4．道徳教育の方法

教育的タクトと対話の重要性を、道徳授業との関連で解説する。

[成績評価の方法]

定期試験を中心として評価するが、レポートを課すこともある。

[教科書]

徳永・堤・宮嶋『対話への道徳教育』（ナカニシヤ出版）

[参考文献]

講義のなかでその都度指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
特別活動論 （旧教科外教育の研究Ⅰ）	01	後　期	2単位	小　島　孝　敏

[講義概要・学習目標]

文部省は、中教審や教課審の答申を受け、「知識を教え込む教育から個性を尊重し生きる力を育む教育」への転換を目指す改革方針を打ち出しました。創意工夫を重視した新学習指導要領も改定告示され、小・中学校では平成14年度から全面実施、高等学校では平成15年度から学年進行で実施されます。府教委も「教育改革プログラム」を発表し、再構築のための具体的な方策を提示しました。

学校現場では、2002年に向けての移行措置を前提とした授業展開が求められ、その教育課程編制のため、諸活動の再吟味や見直しが行われています。学習内容の削減・教科書のスリム化や、総合化という「総合的活動内容」も新設され、これが目玉で教育界のビックバンともいわれます。

「学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事」で構成される特別活動（改定のため一部削除や統合・精選あり）は、集団活動を通じて調和のとれた豊かな人間形成に、重要な役割を果しています。特に、①ガイダンス機能の充実②自然体験や社会体験の充実③国際協調精神を培うこと等が強調され、生徒を「集団成員」としてどう育てるかが課題です。教育目標の意図するところは、現代社会における閉ざされがちな子どもたちに、生活経験を開き社会関係能力の向上・改善を求めることにあります。その実現には、まず教師自身が目標で求められている諸能力を獲得する必要があり、子どもたちを指導するための理論と実践力を持たねばなりません。

この授業では、新指導要領改定の主旨を学びながら、受講生自らの社会関係能力を涵養するとともに、特別活動の教育目標と内容を実践するための基礎・基本について、生徒指導の視点をベースにした体験的学習をすすめることになります。

限られた授業回数の中で集約的に展開しますので、全出席を守り遅刻早退をしないこと。

[講義計画]

1，授業びらき：特別活動の内容と目標、年間計画等。

2，新教育課程への移行期と改革の試み。
　①大阪の教育の現状と課題。
　②歩みと改定の主旨。
　　・総合的な学習活動の対応 ┬ ①国際化。 ②環境問題。 ③少子高齢化社会。

3，
4，［学級活動。］〈小学校は削除〉（改定の主旨と特色ある取組の事例等）。

5，
6，［クラブ活動（部活動）］〈小学校は軽減、中学校は廃止〉。

7，
8，［（児童）生徒会活動］〈集約・統合・精選し実施〉。

9，
10，［学校行事］《儀式的行事・学芸的行事・旅行、集団宿泊的行事》。《体育・健康に関する行事・勤労生産・奉仕的行事》。

11，まとめ・テスト。

☆課題レポート。
特別活動のうち、具体的な内容について一つ以上のプログラムに参加し、観察・補助活動を行う。その模様をレポートして提出する。書式は別に指定する。

〔成績評価の方法〕

出席回数、授業内での小レポート、課題レポート、期末考査の結果等を総合して行う。但し、2／3以上の出席がなければ評価はしない。

〔教科書〕

特になし。
必要なプリント類は、用意します。

〔参考文献〕

授業中にプリントを配付する。
その他　授業の中で適宜紹介します。

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
特別活動論 （旧教科外教育の研究Ⅰ）	０２	後期	２単位	林　陸雄

［講義概要・学習目標］

中学校・高等学校の正規の教育活動には、各教科の授業以外に「特別活動」がある。その内容には、学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事が含まれている。

その教育目標の意図するところは、現代社会における閉ざされがちな子どもたちの社会生活体験を開き、社会関係能力の向上・改善を図ることにある。

それを実現するには、まず教師自身がこの教育目標で求められている諸能力を獲得する必要がある。その上に、現実の子ども達を指導するための理論と実践力を合わせ持たねばならない。

従って、この授業では、受講生自らの社会関係能力を涵養すると共に、特別活動の教育目標と内容を実践するための基礎・基本について、体験的学習をすすめることになる。

地域の諸学校における各種特別活動に参加し、参観・補助活動等をなし、所定の様式によるレポートを提出すること。その内容・方法については、初回の授業で説明する。

限られた授業回数の中で集約的に展開するので、全出席を守り、遅刻早退をしないこと。

［講義計画］

1. 特別活動の目標と内容、年間計画
2. 学級活動１
3. 学級活動２
4. 生徒会活動１
5. 生徒会活動２
6. クラブ活動１
7. クラブ活動２
8. 学校行事１
9. 学校行事２
10. 学校行事３
11. 学校行事４
12. まとめ

［成績評価の方法］

2/3以上の出席、授業内での小レポート、期末考査の結果を総合して行う。
但し、2/3以上の出席がなければ評価をしない。

［参考文献］

授業の中で、適宜紹介する。

［教科書］

プリントを配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
生徒指導法 （旧教科外教育の研究Ⅱ）	０１	前　期	２単位	辻　川　信　孝

［講義概要・学習目標］

今、子どもたちの実態は深刻である。いじめ、不登校、学級崩壊、校内暴力をはじめ、さまざまな生徒指導上の問題が多発し、学校教育のあり方が問われている。

一方、新しい教育のあり方が議論され、個性重視、生きる力の育成、学校週５日制への対応等、生徒指導の新しい課題も指摘され、教育改善の取り組みがすでに始まっている。

このような状況の中で、教育実践者に、これら生徒指導上の問題の本質をとらえる目と個々の子どもに必要な援助方法を身につけることが求められている。

本授業では、学校現場の事例を中心に、参加型の授業を進めていきたい。事例から、問題の本質を見つけ、自分なりの考えをまとめ、グループワークにより、問題解決に向けての考え方（法則性）を習得してもらいたい。

併せて、数多くの事例に接することにより、適切な対応（生徒指導の技術）と子どもたちに接する姿勢（生徒指導の心）を学びとってほしい。

［講義計画］

1．　授業開き、授業方法
2．　教育改革の流れ、「生徒指導」とは
3．　事例研究（生徒指導上の諸課題とその対応）
　①対人関係能力の低下
　②不登校
　③いじめ
　④授業崩壊、学級崩壊
　⑤校内暴力
　⑥性に関する問題行動
4．「やる気を起こさせる」生徒指導
　①学校カウンセリングの基礎
　②楽しい授業づくり
　③自分らしい生き方の進路指導
　④地域連携、校種間連携
5．　まとめ
　①学校が子どもたちに不適応になっていないか
　②子どもが求める教師

［成績評価の方法］

出席状況、期末の最終レポートの結果を総合的に評価して行う。
但し、２/３以上の出席がなければ評価しない。

［参考文献］

授業の中で適宜紹介する。

［教科書］

毎時間、プリントを配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
生徒指導法 （旧教科外教育の研究Ⅱ）	０２	前期	２単位	林　陸　雄

［講義概要・学習目標］

教科指導が布地に多彩な柄を織りなす横糸とするならば、生徒指導はその多彩な横糸を貫いて支える縦糸にたとえられる。教育実践は、この教科指導と生徒指導が相互に補完し合うことによって成立する。

この授業では、生徒の心の在りようを理解し、その成長・発達を援助するための基礎・基本について、体験的学習をすすめることになる。

地域の諸学校における生徒指導に関わる教育活動（部活動、心の相談等）に参加し、参観・補助活動をなし、所定の様式によるレポートを提出すること。その方法・内容については、初回の授業において説明する。

限られた授業回数の中で集約的に展開するので、全出席を守り、遅刻早退をしないこと。

［講義計画］

1．生徒が直面している諸問題１
2．生徒が直面している諸問題２
3．生徒理解の方法１
4．生徒理解の方法２
5．生徒指導の実際１
6．生徒指導の実際２
7．生徒指導の実際３
8．生徒指導の実際４
9．教育相談の理論と技法１
10．教育相談の理論と技法２
11．進路指導の内容と方法１
12．進路指導の内容と方法２
13．まとめ

［成績評価の方法］

2/3以上の出席、小レポート、期末考査の結果を総合して行う。
但し、出席回数が2/3に満たない場合は、評価しない。

［教科書］

授業中にプリントを配布する。

［参考文献］

授業中に適宜紹介する。

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
教育実習	０１ ０２ ０３	前期 前期 前期	３単位 ３単位 ３単位	島田勝正 冷水啓子 林　陸雄

［講義概要・学習目標］

教育実習とは、教職課程で履修してきた学習内容を現実の教育現場に立って実地に検証するものである。これは、実習校での実地実習(2週間）とその前後の学内実習とで構成され、両者あわせて「教育職員免許法施行規則」により求められた3単位となる。

はじめは、学内での事前実習において、教育実習に臨むための基礎的な条件を再確認し、授業に必要な最低の理論と技術を習得する。次いで、教育の現場で、教員としての社会的責任を自覚したうえで、授業実習、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを実地に体験する。そこでは、実習上の要件を満たさない場合は、途中で実習を打ち切られたり、実習の評価をしてもらえなくなることもあるので、学校長をはじめ各教員による指導にしたがい、慎重に行動すること。第三に、再び学内に戻ってからの事後実習では、自己の実習経験をふまえて模擬授業に臨む。また、他の実習生や本学卒業生の体験談などをもとに実地実習内容を再点検し、教職課程全体についての自己評価を行う。

なお、この教育実習では、一貫して、教師としての基礎的条件に関する実地訓練がその基盤となる。したがって、事故または疾病などによる正当な理由がないかぎり、遅刻・早退・欠席は認められないので注意すること。

［講義計画］

1．ガイダンス
2．事前実習：模擬授業
3．事前実習：模擬授業
4．事前実習：模擬授業
5．事前実習：模擬授業
6．事前実習：模擬授業
7．事前実習：模擬授業
8．実地実習
9．実地実習
10．事後実習：模擬授業
11．事後実習：模擬授業
12．事後実習：模擬授業
13．事後実習：本学卒業の教員による講話
14．まとめ

［成績評価の方法］

実習校による評価表、実習簿、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会で総合的に評価する。

［教科書］

桃山学院大学教職課程委員会〈編〉
『教職をめざすには---教職課程履修ガイド----』

［参考文献］

池田、酒井、野里、宇井（編著）『教育実習総説』　（学文社）
白井、寺崎、黒澤、別府（編著）『教育実習57の質問』（学文社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
同和教育論	01	通　期	4単位	黒　田　伊　彦

［講義概要・学習目標］

「人権教育のための国連１０年」も半ばを過ぎ、国内行動計画の具体化による人権文化の確立が求められている。また、人権擁護推進審議会の教育・啓発に関する意見書が出されるに当たり、人権教育の広がりと深さを支える同和教育のあり方が問われている。
前期は差別とは何か、部落差別の現実と闘いの歩みから、部落解放の方策を明らかにする。
後期は、同和教育の歩みから融和教育、同和教育、解放教育の違い。「いじめ」を克服する同和（解放）教育のあり方及び部落悲惨史論・低位性論を克服する部落問題学習のあり方を考察し、部落問題の教科書記述批判や学習教材、集団主義と仲間づくり、学力保障と進路保障、反戦平和教育と部落問題など、反差別・人権教育の現状と方向性を明らかにする。
教員採用試験の同和・人権教育関係問題の演習を行う。
教科書、補充プリント、映像資料を用いる。

前期は島崎藤村の「破戒」の課題研究と読書感想文。原作と映画との比較についてのレポート提出を課す。
後期は「いじめ」を克服する教師のあり方についての資料によるレポートを課す。

人権教育Ⅳ（部落問題）の履修が望ましい。

［講義計画］

〈前期〉
（１）「人権教育のための国連１０年」と同和教育
（２）人権とは何か、差別とは何か
（３）部落差別の現実と本質－部落差別が今も続いている理由
（４）部落の起源と部落差別との闘いの歴史
（５）部落の起源と身分制度、渋染一揆、全国水平社の教科書記述の検討
（６）部落解放の方策と同和（解放）教育の課題

〈後期〉
（１）戦前の融和教育と戦後の同和教育の歩み
（２）同和教育、解放教育とは何か
（３）「いじめ」を克服する同和教育
（４）部落問題学習の基本視点と反差別集団の形成
（５）部落悲惨史論を克服する教材研究
（６）教員採用試験の同和・人権関係問題の演習

［成績評価の方法］

前期はテストと「破戒」に関するレポートと出席点で評価する。
後期はテストと「いじめ」に関するレポートと出席点によって評価する。
出席を重んじる。

［教科書］
黒田　伊彦（著）『部落問題学習１６講』（柘植書房新社）

［参考文献］

黒田 伊彦（著）　『部落史紀行』　（柘植書房新社）
中尾 健次・森 実（編）　『同和教育の理論』　（東信堂）
部落解放研究所（編）　『戦後同和養育の歴史』　（解放出版社）
山田 隆夫（著）黒田 伊彦（解説）『自己教育論』　（新泉社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
同和教育論	０２	通　期	４単位	寺　木　伸　明

［講義概要・学習目標］

本講義では、まず同和教育とはどのような教育をいうのかを説明し、そして、そもそも同和教育は必要なのか、について議論をしたい。
次に、現在、被差別部落出身の子供たちをとりまく、なまなましい差別の実情について、具体例をあげながら説明する。そうした現実をふまえて、現在、小学校・中学校・高校でどのような同和教育の実践が行われているのか、を検討する。その際、実際、中学校と高校の先生にゲスト講師できていただき、教育現場での取り組みを報告していただく予定である。
つづいて、同和教育の歴史、部落問題学習の実際の進め方などについて、最近の研究成果をふまえて講義する。
同和教育の現在の問題点や課題などについても受講生諸君と議論をしながら確かめていきたい。視聴覚教材も活用したいと考えている。
できるだけ人権問題Ⅵ（部落問題）を履修しておくことが望ましい。

［講義計画］

1．同和教育とは何か
2．同和教育は必要か
3．教育における部落差別の実情
4．中学校における同和教育の実践例（ゲスト講師予定）
5．同和教育の歴史
6．部落問題学習の進め方
7．高校における同和教育の実践例（ゲスト講師予定）
8．同和教育の問題点と課題

［成績評価の方法］

前期も後期も試験を行い、それらの結果を基本に、時々課す小レポートの内容を加味して評価する。

［教科書］

解放出版社編『部落問題　資料と解説』（解放出版社）

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
視聴覚教育		後　期	2単位	冷　水　啓　子

［講義概要・学習目標］

情報化社会の進展に伴って，人々を取りまく教育・社会的環境が急速に変化しつつある。家庭，学校，地域社会において，ケーブル・テレビ，衛星放送，字幕番組などの普及により，テレビ利用の選択肢がさらに広がった。また，さまざまな電子メディアが導入され，日常的にそれらに接する機会が増えた。コンピュータ・ネットワークやインターネットを通じて，情報の検索や受信を行うだけでなく，情報発信さえも容易にできるようになり，時間や空間を越えた幅広いコミュニケーション活動が可能となった。そのため，このような視聴覚メディアを媒介として情報を適切に理解し，利用し，作り出す能力（マルチメディア・リテラシー，情報活用能力など）の育成が，新たな教育課題として重要視されるようになった。

そこで，この「視聴覚教育」では，「視聴覚教育とメディア」に焦点を絞り，視聴覚教育メディアの発展と特徴，それらを活用した学習支援の方法を検討する。さらに，利用に際する問題点およびその教育的可能性と限界についても考察を行う。具体的には，はじめに講義と討論を，つぎにコンピュータ実習およびプレゼンテーション教材の作成を行う。講義や実習に関連する資料は，コンピュータ，OHC，VTR，印刷物などを通じて適宜提供する。

受講生の主体的・積極的な参加を期待している。

［講義計画］

1　視聴覚教育および視聴覚教育メディアの変遷
　1）視聴覚教育および視聴覚教育メディアとは何か？
　2）活字・印刷物の利用：書籍，絵本，漫画など
　3）テレビとビデオの利用：その利用形態と社会・教育的役割
　　①子供向けアニメーション番組
　　②幼児教育番組
　　③字幕・手話通訳つき番組
2　コンピュータの発展と教育利用
　1）コンピュータ・ゲーム：子どもの発達と学習への影響
　2）教育へのコンピュータ利用：CAI，CMI
　3）電子メールやインターネットの利用
　4）コンピュータ・リテラシー，情報活用能力の育成
　5）コンピュータ利用をめぐる教育・社会的問題
3　視聴覚教育メディアの活用：プレゼンテーション教材の作成と発表

〔但し，講義や実習の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

［成績評価の方法］

出席および講義や実習への参加を重視する。学期末に，作成したプレゼンテーション教材およびレポート提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

［教科書］

桃山学院大学計算機センター(編)
　『桃山学院大学計算機センター　ユーザーズガイド』

［参考文献］

赤堀侃司（著）『学校教育とコンピュータ』（NHKブックス）

水越敏行・佐伯胖(編)『変わるメディアと教育のありかた』(ミネルヴァ書房)

(財) 日本視聴覚教材センター（編）『視聴覚教材メディアの活用』

永田元康　他（著）『情報教育概論』（コロナ社）

高島秀之（編）『マルチメディア教育』（有斐閣選書）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
生涯学習概論	01 02	前　期 後　期	2 単位 2 単位	伊　藤　正　純

［講義概要・学習目標］

1960年代以降、ユネスコ等の国際機関で生涯教育・生涯学習の必要性が提唱されてきたのは、先進国では、急速な技術革新および長寿社会によって成人の学習機会が経済的・文化的生活にとって不可欠になってきたからであり、後進国では、学習によって貧困から脱出するためにも、子どもだけでなく大人の学習機会が不可欠だったからである。本講義では、このような国際的動向に加えて、生涯学習の先進国であるスウェーデンでの成人教育の諸制度（特に勤労成人に対する教育休暇制度および学習サークル）を紹介し、それとの対比で文部省が推進している日本の「生涯学習社会」の意義と限界を考えてみたい。なお、日本でも自治体レベルで、旧来の社会教育（図書館・博物館・公民館での活動）を包摂した様々な生涯学習推進事業が展開されているので、その例を2、3紹介するつもりである。

［講義計画］

1．生涯学習とは何か
　ユネスコの生涯教育論、OECDのリカレント教育論
2．生涯学習の国・スウェーデンでの実験
　コミューン成人教育、国民高等学校
　高い成人学生の割合、学生ローン制度
　教育休暇制度、成人教育奨学金制度、学習サークル
3．日本の生涯学習の特異性
　生涯学習振興法と「生涯学習」の実情
　高等教育における生涯学習の推進状況
4．地方自治体の取り組み

［成績評価の方法］

司書および学芸員資格取得科目であるので、出席重視・授業中の感想文重視で評価する。定期試験を実施するかどうかは未定。なお、20分を超えた遅刻は認めない（入室禁止措置をとる）。

［教科書］

使用しない。

［参考文献］

1．黒沢惟昭編『苦悩する先進国の生涯学習』社会評論社
2．赤尾勝己『生涯学習概論』関西大学出版部
3．倉橋史郎・鈴木真理編『生涯学習の基礎』学文社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
図書館通論		前期	2単位	志保田　務

［講義概要・学習目標］

図書館、図書館情報学のおおよそについて平易に概説する。まず、図書館は何をするところかを把握し、その果たす役割について考える。そこで情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。次に図書館を構成する要素を確かめる。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）→利用者(住民)の4点に分かれるが、本講義では、利用者（住民）および図書館システムに焦点をおく。そこでは図書館サービスが追究の対象となる。各種の館種のうちここでは公共図書館を中心に論じる。まとめとして「図書館の自由」と図書館経営について論じ、図書館世界の将来、電子図書館やバーチャルライブラリについて検討する。

図書館を構成する要素のうち最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。

［講義計画］

1. 図書館とはなにか
2. 図書館の果たす役割
3. 情報の伝達と図書館
4. 社会、生涯学習と図書館
5. 図書館の構成要素
6. 図書館の種類（館種）
7. 公共図書館：理念
8. 公共図書館の歴史と現代
9. 公共図書館の利用者
10. 図書館の自由
11. 図書館経営
12. まとめ

［成績評価の方法］

テスト８０％　レポート　２０％

［教科書］志保田務編著『図書館概論』（樹村房）

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
図書館経営論		後　期	2単位	西田文男

［講義概要・学習目標］

生涯学習社会における図書館という観点を重視して、図書館経営に関わる組織、管理、運営、各種計画について解説する。

［講義計画］

1．図書館経営の在り方
2．自治体行政と図書館
3．図書館の組織と管理・運営
4．図書館長・館員の責務および研修
5．図書館サービス計画の意義と方法
6．図書館の整備計画と施設、設備、備品
7．図書館業務・サービスの評価
8．情報ネットワークの形成の意義と方法

［成績評価の方法］

定期試験の成績によって評価する。

［教科書］

竹内紀吉「図書館経営論」　教育史料出版会

［参考文献］

その都度指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
図書館サービス論		前　期	2単位	西田文男

［講義概要・学習目標］

利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに、各種サービスの特質を明らかにする。

［講義計画］

1．図書館サービスの概念と意義
2．図書館サービスの計画と評価
3．図書館活動の発展
4．図書館サービスの現状と課題
5．図書館づくりの施策と運動

［成績評価の方法］

定期試験の成績によって評価する。

［参考文献］

その都度指示する。

［教科書］

塩見　昇「図書館サービス論」　教育史料出版会

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
情報サービス概説		前　期	2単位	西田文男

［講義概要・学習目標］

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。

［講義計画］

1．情報サービス一般の広がりと、図書館が行う情報サービスの位置づけ
2．図書館における情報サービスの意義と種類
3．情報および情報探索行動についての基本的理解
4．レファレンスプロセス
5．情報検索サービスの方法・プロセス・評価
6．重要な参考図書、データベースの解説と評か
7．参考図書およびその他の情報源の組織
8．各種情報源の特徴と利用法

［成績評価の方法］

定期試験の成績によって評価する。

［参考文献］

その都度指示する。

［教科書］

西田文男監修　志保田　務・平井尊士編著
「情報サービス（概説とレファレンスサービス演習）」　学芸図書

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
情報サービス演習		後　期	1単位	西田文男

［講義概要・学習目標］

参考図書その他の情報源の利用や作成、レファレンス質問の回答処理の演習を通して、実践的な能力の養成を図る。

［講義計画］

タイプの異なる各種の演習問題を課し、回答を作成してもらい、発表してもらう。

1．図書に関する質問
2．逐次刊行物に関する質問
3．ことばに関する質問
4．ことがらに関する質問
5．歴史に関する質問
6．地理に関する質問
7．人物・団体に関する質問

［成績評価の方法］

定期試験の成績と発表の内容字等によって評価する。

［参考文献］

その都度指示する。

［教科書］

西田文男監修　志保田　務・平井尊士編著
「情報サービス（概説とレファレンスサービス演習）」　学芸図書

《インテグレーション科目》

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　チ　ー　フ
情報検索演習（インテグレーション）	01	前期	1単位	志保田　務

［講義概要・学習目標］

図書館、図書館情報学のおおよそについて平易に概説する。まず、図書館とは何をするところかを把握し、その果たす役割について考える。そこでは情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。

次に図書館を構成する要素を確かめる。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）→利用者（住民）の4点に分かれるが、本講義では、利用者（住民）および図書館システムに焦点をおく。そこでは図書館サービスが追究の対象となる。図書館に各種の館種があるが、ここでは公共図書館を中心に論じる。

［演習計画］

1．ガイダンス：インテグレーション計画
2．情報利用社会
3．データベースの構造
4．データベース検索の基本
5．一次情報と二次情報
6．図書、人物情報の検索（「ASSIST」利用）
7．新聞記事、雑誌記事の索引（「日経テレコン」利用）
8．企業情報（「DIALOG」利用）
9．サーチャーと情報検索基礎能力試験
10．情報検索基礎能力試験に照準をおいて
11．情報検索と英語
12．まとめ

［成績評価の方法］

テスト70％　課題　20％
出席　10％

［参考文献］

志保田務編著『情報機器論・特論：メディアの活用』（第一法規）
『情報検索入門』第4版（情報の科学と技術協会）

［教科書］『情報検索の基礎』第2版（情報の科学と技術協会）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
情報検索演習	０２	前　期	１単位	中　崎　修　一

［演習概要・学習目標］

現在、多様化した情報資源を活用する能力は必須となっている。特に、ネットワークを利用することで、場所を移動することなく、世界中の様々な情報源から必要な情報を瞬時に収集できるようになった。

本演習では、情報の読み方や多種多様な情報の検索を通じて、情報源の調査、情報収集の手法と多様化した情報源へのアクセス法の習得を図ると同時に、実践的な技術の習得を図ることを目的とする。

レポート提出および連絡を電子メールで行うため、基本的なパソコンおよび電子メールの利用を習得していることを前提とする。

［演習計画］

1. 情報化社会と情報メディア
2. 情報検索概説
3. 一時情報と二次情報
4. データベース基礎
5. 情報検索の論理
6. インターネットと情報検索
7. 情報検索の実際：図書情報
8. 情報検索の実際：雑誌情報
9. 情報検索の実際：新聞情報
10. 情報検索の実際：学術情報
11. 情報検索の実際：その他
12. まとめ

［成績評価の方法］

レポート、筆記試験、出席から総合的に判断する

［教科書］

志保田務・平井尊士・中崎修一編著『情報活用術：情報検索・情報処理の楽々実行　－サーチャ・システムアドミニストレータへの入門路－』（学芸図書株式会社）

［参考文献］

志保田務編著『情報機器論・特論：メディアの活用』（第一法規）
『情報検索の基礎』第２版（情報科学技術協会）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
図書館資料論		後期	２単位	志保田　務

［講義概要・学習目標］

図書館を構成する要素のうち、最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。特に資料の電子化に注目する。電子ブック、電子図書館、インターネット等に言及する。

［講義計画］

1. 図書館資料論　　出版史、図書館史
2. 図書館資料の種類
3. 資料の生産と流通
4. 資料の選択
5. 資料選択論
6. 図書館の自由
7. 電子資料、電子情報
8. ネットワーク
9. インターネット
10. 著作権
11. 公貸権
12. まとめ

［成績評価の方法］

テスト８０％　課題　２０％

［教科書］　プリントによる。

［参考文献］

志保田務編著『『図書館概論』（樹村房）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
専門資料論		前期	2単位	松永　俊男

［講義概要・学習目標］
人文科学、社会科学、自然科学の各分野の学問としての特徴、および各分野の文献の特徴と種類について解説する。

［講義計画］
1．学術文献とはなにか
2．分野の特徴と学術文献
3．学術雑誌の特徴
4．学術文献の歴史
5．雑誌 nature について
6．学術における不正
7．二次資料について
8．百科辞典について

［成績評価の方法］
平常点と最終テストを総合して評価する。

［教科書］

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
資料目録法		前　期	2単位	北　克一

［講義概要・学習目標］

資料組織法の中心的柱である目録の意義・目的と方法、図書館資料の目録法について学習する。目録の機能について概説し、その理解を深めるとともに、図書館で用いるツールとしての構築法、利用法の両側面から基礎知識を理解させる。目録対象の理解を持ち、目録の基本構造や書誌コントロールの意義を把握し、書誌ユーティリティの機能を理解することを主眼とする。

［講義計画］

コンピュータ目録を中心に取り上げ、併せて最近の全文データベースの組織法やネットワーク情報源のメタ目録についても言及する。書誌コントロールの歴史、現状、典拠ファイルの役割などについて図書や逐次刊行物を例として取り上げて講義を進める。

［成績評価の方法］

ミニテスト及び最終試験

［教科書］

木原通夫、志保田務、高鷲忠義著　『資料組織法　第3版』、第一法規出版
プリントは適時に配布する

［参考文献］

丸山昭二郎著、『情報と図書館』丸善
永田治樹著、『学術情報と図書館』丸善

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
資料分類法		前期	2単位	吉田　憲一

［講義概要・学習目標］

「Books are for use」（インドの分類学者ランガナタンの図書館学の第一法則）との余りに当然と思われる命題も真となってまだわずか百数十年を経過するにすぎない。膨大な図書館資料を迅速かつ有効に利用できるためには、図書館資料の排架方法を知り、主題から資料にアクセス（検索）するための理論を会得することが第一に必要である。この主題検索の理論は、大別すると分類法と件名法に2分される。

この科目では、両者に共通する主題検索の基本的な考え方を学んでもらうことを目的とする。

［講義計画］

今日の多くの大学図書館で利用に供されているＯＰＡＣ（オンライン閲覧目録）の時代にマッチした理論として考えていきたい。

ｱ)分類法
1．資料分類の意義
2．基礎的理論
3．世界の代表的な分類表
4．日本十進分類法：助記法およびその構造
5．相関索引等

ｲ)件名法
1．分類法と件名法の相違
2．件名標目表とシソーラス
3．基本件名標目表

［成績評価の方法］

出席および最終講義時のテスト結果で評価する。

［教科書］

木原通夫ほか著　『資料組織法　最新版』（第一法規出版）

［参考文献］

丸山昭二郎編　『主題情報へのアプローチ』（雄山閣）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
資料目録法演習	０１ ０２	後　期 後　期	1単位 1単位	北　克一

［講義概要・学習目標］

資料目録法で学習した目録規則、典拠コントロールなどを目録作成の演習を通して、目録に対する理解・経験を深めることを目的とする。

［講義計画］

カード目録を通じて目録基礎を学習すると共に、書誌ユーティリティを使用してのコンピュータ目録作成演習を行なう。コンピュータ目録演習が中心となるので、キーボード操作、マウス操作、かな漢字変換などについては事前に自己学習しておくこと。作成した機械可読目録(ＭＡＲＣ)を加工して、各人のＯＰＡＣを構築し、検索演習を行なう。

［成績評価の方法］

演習課題提出と最終レポート

［教科書］

北　克一著『資料組織演習－書誌ユーティリティ、コンピュータ目録』、Ｍ．Ｂ．Ａ．
プリントは適宜に配付する。

［参考文献］

教科書のp. 45に参考文献一覧を掲載。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
資料分類法演習		後期	1 単位	吉田　憲一

［講義概要・学習目標］

後期の演習（分類法）では，資料の内容（主題）にかかわる検索のための主題組織化の技術，つまり主題索引法（分類法および件名法）について，今日、日本の大多数の図書館で使用されている「日本十進分類法」（ＮＤＣ）および「基本件名標目表」（ＢＳＨ）を用いて授業を進める。毎回，演習課題を課して，それへの解答作成を通じて，主題組織化の実際を学習してもらうことをねらいとする。

また，コンピュータ目録の時代に即した主題検索法についても，コンピュータ室を使用して演習を行う。

［講義計画］

1．主題分析と主題把握
　①自然語による主題把握
　②統一名辞による主題把握
2．分類法
　①分類作業
　②一般分類規程
　③特殊分類規程
　④各類演習
　⑤別置法・図書記号法
3．件名法
　①件名作業
　②件名規程
　③件名演習
4．コンピュータ演習

［成績評価の方法］

授業時に行う演習問題の解答レポートと、テストで総合評価する。

［教科書］

吉田憲一編著　『資料組織演習』　（日本図書館協会）
（ＪＬＡ図書館情報学テキストシリーズ１０）

［参考文献］

日本図書館協会編刊　『日本十進分類法　新訂９版』
日本図書館協会編刊　『基本件名標目表　第４版』

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
児童サービス論		前　期	2 単位	清　水　昭　治

［講義概要・学習目標］

公共図書館では、普通、いわゆる一般用と子供用とに部屋又はコーナーを分けて、本をならべています。後者は、大体、中学生までを対象にし、絵本から、小学生、中学生までの中高い子供用の本をそろえています。この講義では、主に、公共図書館の児童サービスを中心として、学校図書館、家庭や地域の文庫活動なども対象にし、又、大人と児童との中間地帯の いわゆる ヤングアダルトと呼ばれる中学生や高校生などの図書館とのかかわりも考えます。生涯教育が叫ばれる中で、図書館の役割は、今後、ますます増大します。その時、図書館利用が習慣化されることは大切です。その習慣化の第一歩が児童サービスです。

［講義計画］

講義と共に、具体的に、実際に、多彩に出版されている子供の本を紹介しながら、又、「読みきかせ」などを通じて、子供の本を楽しみながら、講義をすすめます。

又、スライドなどを利用しながら、具体的な子供の図書館の姿を学びたいと思います。

［成績評価の方法］

レポート　又は、学年末試験に加えて、出席状況や平常成績とで、総合評価します。

［教科書］

［参考文献］

参考文献は、講義の中で、お知らせしますが、まずは、文献よりも実際の図書館の児童室、あるいは、児童コーナーを体験しておいてください。

はじめは、少し、躊躇しますが、一度、体験すれば、一般用の図書館と同じように利用できることと思います。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当者
図書及び図書館の歴史		後期	2単位	志保田　務

［講義概要・学習目標］
図書及び図書館に流れた歴史を確かめる。歴史を見るには観点の設定が欠かせない。それぞれの時代の図書、図書館が誰のものであったか、何のために造られたのか。こうした点に留意する。
とくに近代図書館の成立を、図書館の大衆化及び生涯学習施設化の現実をとらえ、掘り下げる。

［講義計画］
1. 文献史、情報史、学習史、出版史、図書館史
2. 古い時代の図書館1　アジア、アフリカ
3. 同　エジプト
4. 同　ギリシア、アレクサンドリア
5. 修道院図書館
6. 大学図書館
7. 人文主義と図書館
8. 宗教改革と図書館
9. 産業化社会と図書館
10. 市民社会と図書館
11. 日本の図書館
12. 同上

［成績評価の方法］
テスト80％　レポート　20％

［テキスト］図書館：その本質、歴史、思潮』改訂版（丸善）

［参考文献］

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
資料特論		後期	2単位	松永　俊男

［講義概要・学習目標］
行政資料、郷土資料、および視聴覚資料に注目し、それぞれの特徴、収集、利用等について解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。

［講義計画］
1．はじめに
2．行政資料について
3．情報公開制度について
4．公文書館について
5．視聴覚資料について
6．CD－ROMの利用
7．郷土資料について
8．まとめ

［成績評価の方法］
講師それぞれの評価（テストまたはレポート）を総合して評価する。

［教科書］

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
情報機器論		前　期	２単位	藤間　真

［講義概要・学習目標］

近年の図書館は、単なる紙の集積ではない。色々な情報機器によって装備されている。そのことは、本学の図書館に１歩入って周りを見渡すだけでわかるであろう。言い換えると、情報機器に関する知識はこれからの司書にとって不可欠の知識である。

本講の目的は図書館における情報機器に関する基本的な知識の修得である。
単なる現状追認に終わらず、司書としての人生に役立つよう本質的な理解を目指す。
具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と講義の進展の状態に応じて変更することもありうる。

連絡は掲示を通じて行うので、常に掲示に留意すること。

［講義計画］

・情報とは
・情報を機械で扱うとは
・図書館で使われる情報機器
・情報処理システムの基礎知識
・パソコンの基礎知識
・視聴覚機器とプレゼンテーション

［成績評価の方法］

学期末レポートを主に、平常成績を加味し総合的に判断する。

［教科書］

［参考文献］

進行状況に応じて指示する。
尚、講義に必帯とはしないが、
志保田務・平井尊士　編著　図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用　第一法規
に目を通すことは要求する。この件の詳細については、１回目に詳述する。

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　チーフ
図書館特論		後期	２単位	志保田　務

［講義概要・学習目標］

今日、社会は情報を軸に動いている。この情報化社会の起動システムとして入り込んでいるコンピュータについて、その機能の理解と利用能力の獲得は欠くことができない。こうした社会システム下のコンピュータ運用の基礎的部分の担当者としてシステムアドミニストレーターがある。この科目はまずこの職域に関する技術を管見する。つぎにデータベースは図書館にとって常識化しているので、その扱いについてここで学ぶ。さらに検索の専門家サーチャーへの登竜門となる情報検索基礎能力試験をも目指す。各分野の専門家によるインテグレーション授業とし、大半はA館のコンピュータ演習室を使用する。

この授業の第１回講義までに、次の条件を満たしておくこと。

1　E-MAIL　Addressを取得しておくこと（学内LANのそれでよい）
2　パソコンキーボードの操作、入力ができること。

［講義計画］

1. ガイダンス：インテグレーション計画
2. シスアドとサーチャー（情報検索代行者）
3. データベースとは何か
4. データベース検索学習（一般）
5. データベース検索（化学・薬学）
6. データベース検索（特許）
7. データベース検索実用
8. データベース検索実用（DIALOG）
9. 情報検索と英語
10. 情報基礎能力試験に向けて
11. システムアドミニストレータ試験に向けて

［成績評価の方法］

テスト５０％　課題　３０％
出席　２０％

［教科書］志保田務・平井尊士編著『情報活用』（学芸図書）

［参考文献］

志保田務編著『情報機器論・特論：ﾒﾃﾞｨｱの活用』（第一法規）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
学校図書館論１（学校経営と学校図書館）		前期	２単位	吉田　憲一

［講義概要・学習目標］

９７年６月，長年の懸案であった学校図書館法が改正された。様々な問題を残しながらの改正であるが、これをこれからの学校図書館の充実に向けてどのように生かしていくかが今後の課題である。
この授業では、「学校の中の図書館」としての学校図書館がもつ特有の機能（指導的機能）と、図書館自体がもつ共通的な機能（奉仕機能）を留意しつつ、学校図書館の意義と役割を全般的に学んでもらう。
そこでは、学校図書館の主要な構成要素である人、施設、資料について、その経営（運営・管理）的な要素が中心となる。
前半部分では、主として学校図書館の意義や役割りについて、後半部分では、学校図書館を掌理する司書教諭の役割および施設についてを、講義内容の柱として進めていく。
また、ビデオを利用して，学校図書館のいきいきとした活動の実際も学んでもらうこととする。

［講義計画］

1．学校図書館の理念と教育的意義
2．学校図書館関連法規・基準
3．学校図書館法解説
4．学校図書館の歴史
5．学校図書館の経営
　人、施設、資料、予算など
6．学校図書館の運営・管理
7．司書教諭の役割
8．学校図書館の施設
9．学校図書館の活動とネットワーク

［成績評価の方法］

中間期のレポートおよび最終講義時のテスト結果で評価する。

［教科書］

福永義臣編著　『学校経営と学校図書館』　（樹村房）
（学校図書館実践テキストシリーズ３）

［参考文献］

塩見昇著　『学校図書館論』　（教育史料出版会）
（新編図書館学教育資料集成９）
全国学校図書館協議会編刊　『司書教諭の任務と役割』
学校図書館活性化研究会編　『学校図書館の活用実践事例集』　第一法規

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
学校図書館論II（学校図書館メディアの構成）		前期	２単位	志保田務

［講義概要・学習目標］

本科目は、学校図書館法のもとの学校図書館司書教諭講習科目「学校図書館メディアの構成」にあたる。次のような概要と学習目標を有する。
〈内容〉
1)学校図書館メディアの種類と特性
2)学校図書館メディアの選択と構成
3)学校図書館メディアの組織化
　資料配列法：
　　書架分類法：日本十進分類法（ＮＤＣ）
　　図書記号法
　　別置法
　資料目録法：
　　主題目録法
　　件名法：基本件名標目表（ＢＳＨ）
　　書誌分類法
　　名称による検索：日本目録規則（ＮＣＲ）1987年版改訂版
　目録の機械化
　多様な学習環境と学校図書館メディアの構成

［講義計画］

1　メディアの構成：資料論
2　分類
3　書架分類
4　日本十進分類法　1
5　同上　2
6　分類法演習　1
7　同上　2
8　目録法
9　同上（タイトル目録）
10　同上（著者目録）
11　同上（件名目録）
12　機械化目録
13　多様な学習環境と学校図書館メディア

［成績評価の方法］　テスト80％　課題　20％

［教科書］

木原通夫、志保田務『分類・目録法入門：メディアの構成』新改訂版第２版　（第一法規）

［参考書］志保田務［ほか］『資料組織法』第４版　（第一法規）

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
学校図書館論Ⅲ　（学習指導と学校図書館）		前期	2単位	林　陸雄

［講義概要・学習目標］
学校図書館の役割は、児童・生徒の読書意欲を高め、各教科の学習指導、調べ学習、総合学習等の学習指導に寄与することにある。そのためには、常に読書ニーズや学習目的を点検し、それに見合った図書・資料を選択・収集し、適切に活用できる環境を整える必要がある。さらに、彼らの学習を深め、その結果を発表する能力を育成することも求められている。この講義では、計画的な図書館運営とメディア活用能力育成のための指導について、その基本と実際をとりあげる。
授業の展開に当たっては、現場で実践されている先生を、ゲスト講師として適宜お招きする。

［講義計画］
1．学習指導と学校図書館の関係
2．教育課程の展開と学校図書館1
3．教育課程の展開と学校図書館2
4．主体的学習とメディア活用能力1
5．主体的学習とメディア活用能力2
6．メディア活用能力育成の計画と方法1
7．メディア活用能力育成の計画と方法2
8．メディア活用能力育成の展開1
9．メディア活用能力育成の展開2
10　学校図書館における情報サービス
11．海外における図書館サービス（ｱﾒﾘｶ）
12．海外における学校図書館サービス（ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ）
13．教師への支援と働きかけ
14．まとめ

［成績評価の方法］
出席状況、授業毎の小レポート、ならびに定期試験の結果を総合して評価する。

［参考文献］
授業中に適宜紹介する。

［教科書］
授業中にプリントを配布する。

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
学校図書館論Ⅳ　（読書と豊かな人間性）		後期	2単位	林　陸雄

［講義概要・学習目標］
子ども達の豊かな心を醸成するに当たって、読書指導及び読書体験の深化は重要な役割を担っている。
この授業では、子どもたちの読書ニーズを涵養し、読書活動を推進・援助し、人間性豊の心の醸成に資する学校図書館活動の基本と実際についてとりあげる。
なお、授業の展開に当たっては、ゲスト講師を適宜お招きする。

［講義計画］
1．読書と豊かな人間性について
2．子どもの読書の意義1
3．子どもの読書の意義2
4．子どもの読書実態と指導
5．読書推進活動と連携活動
6．読書資料の種類と活用
7．資料の選択・収集とその方法
8．子どもと本を結ぶための方法
9．校内・外関係者との相互支援体制
10．読書指導の実践例Ⅰ
11．読書指導の実践例Ⅱ
12．読書指導の実践例Ⅲ
13．地域社会の関連施設との連携
14．まとめ

［成績評価の方法］
出席状況、授業毎の小レポート、定期試験の結果を総合して評価する。

［参考文献］
授業中に適宜紹介する。

［教科書］
授業中にプリントを配布する。

＜９６・９７Ｓ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学		通　期	４単位	清　水　夏　樹

［講義概要・学習目標］

【講義概要・学習目標】
集団、組織、ネットワーク、地域社会、福祉文化といった基礎概念をまなぶことから始め、社会学的なものの見方・とらえ方とはどういうことかを理解できるよう概説する。とくに、「共同体」から「協同体」へ、また、「ハード」から「ソフト」へ、という情報化社会の動向を軸に、情報通信技術の高度化にともなう諸問題をとりあげ、現代社会の光と影－健康面と病理面－を照射してみたい。日常的な話題やトピックスに眼を向けつつも、現代社会を生み出した歴史性とアイデンティティの準拠基盤を問う姿勢を忘れずに学んでほしい。

［講義計画］

〈前期〉社会的自我の発達　言葉とコミュニケーション、役割と組織　集団行動とゲームの相互性　文化と行動様式、共同体社会と集合表象　準拠集団の準拠性レベル

〈後期〉階級と階層、宗教と経済社会、中層階級と市民社会　近代化とポスト工業社会　情報ネットワーク化と文化的協同体、消費社会と新しい集団準拠性
社会関係と演技性　メディア、メッセージ、記号、社会機能とシステム

［成績評価の方法］
年度末試験（簡易テスト、および同レポートを適時参照する）

［参考文献］
その都度紹介する。

［教科書］
授業中に指示する

＜９６・９７Ｓ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
医学一般		通　期	４単位	郭　麗月

［講義概要・学習目標］

1　人体の基本的な構造や機能について理解させる。
2　臨床医学の各分野の概要について理解させる。
3　医学的リハビリテーションの概要について理解させる。
4　現代社会の代表的な疾患について理解させる。
5　公衆衛生の概要を理解させる。
6　保健医療対策の概要を理解させる。
7　医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。
8　社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

［講義計画］

1　人体の構造・機能
2　一般臨床医学（内科、外科、整形外科、神経・精神科等）の概要
3　医学的リハビリテーションの概要
4　現代社会と疾病
　1）がん、生活習慣病
　2）各種感染症
　3）神経・精神疾患
　4）先天性疾患
　5）難病
　6）その他
5　公衆衛生の現状
　1）人口動態
　2）疾病と受療状況
　3）医療関係者
　4）医療施設
6　保健医療対策の現状
7　医事法制と保健・医療機関及び専門職
　1）医療法、医師法、保健婦助産婦看護婦法等、医事法制の概要
　2）保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方

［成績評価の方法］

レポート、定期試験の成績で評価する。

［参考文献］

適時紹介する。

［教科書］

福祉士養成講座編集委員会編
　社会福祉士養成講座１４「医学一般」（中央法規）

＜９６・９７Ｓ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
介護概論	０１ ０２ ０３	９月集中 ９月集中 ９月集中	２単位 ２単位 ２単位	臼井　キミカ 佐瀬　美恵子 津村　智恵子

［講義概要・学習目標］

1　介護の役割と範囲を理解させるとともに、看護・医療及び家政との関係について理解させる。

2　具体的な介護の展開過程や介護の実際について演習形式等を活用し理解させる。

3　身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。

4　病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する予防措置を講ずることができるようにする。

［成績評価の方法］

レポートに出席状況を加味して評価する。

［講義計画］

1　介護の目標、機能及び範囲
　1）介護の原則、目標、機能及び範囲
　2）自立的な生活維持に対する需要と介護の役割
　3）成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割
　4）健康維持のメカニズム
　5）終末期の介護
　6）介護過程の展開
2　介護技法（安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等）の基本
　1）住生活環境の安全管理（感染防止）
　2）食事
　3）排泄
　4）衣服の着脱
　5）入浴・身体の清潔と感染防止
　6）移動空間の確保
　7）健康習慣の獲得
　8）体力の維持（運動と機能維持）
　9）自己達成と社会生活の維持（レクリエーションと学習等）
　10）療養時の対応
　11）緊急・事故等の対応
　12）介護家族への生活維持援助
　13）福祉用具の活用
3　介護関係維持のための技法
　1）健康や生活の観察技法
　2）コミュニケーションの技法
　3）記録と情報の共有化の技法
　4）介護専門職（介護福祉士）と医師・看護婦・保健婦等医療専門職との連携のあり方
　5）介護専門職とその他の福祉専門職（社会福祉士）との連携のあり方
4　介護活動の場に特有な問題と技法
　1）家庭
　2）施設

［教科書］

編集代表　津村智恵子、臼井キミカ『介護実践ハンドブック』（日総研出版）定価3,500円

［参考文献］

その都度紹介する。

＜９７Ｓ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
精神医学		通　期	４単位	岡田　章

［講義概要・学習目標］

1　精神医学、精神医療の歴史を理解させる。

2　脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。

3　精神医学の概念について理解させる。

4　精神医学の診断の基本的な方法について理解させる。

5　代表的な精神障害について理解させる。

6　治療の概要について理解させる。

7　病院精神医学および地域精神医学について理解させる。

［成績評価の方法］

前期レポート、後期試験を予定

［教科書］

精神保健福祉士養成セミナー　第１巻　『精神医学』　（へるす出版）

［講義計画］

1　精神医学、精神医療の歴史
2　脳および神経の生理・解剖
3　精神医学の概念
　1）精神医学の概念
　2）精神障害の成因と分類
4　診断法
　1）診断の手順と方法
　2）精神症状と状態像
　3）心理検査と身体的検査
5　代表的な精神障害
　1）症状性を含む器質性精神障害（老人性痴呆を含む）
　2）精神作用物質使用による精神および行動の障害
　3）精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害
　4）気分（感情）障害
　5）神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
　6）生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
　7）成人の人格および行動の障害
　8）精神遅滞
　9）心理的発達の障害
　10）小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害
　11）神経系の疾患（てんかんを含む）
6　治療法
　1）身体的療法
　　①薬物療法とその副作用
　　②電気ショック療法
　2）精神療法
　3）環境・社会療法
　4）精神科リハビリテーション
7　病院精神医療および地域精神医療
　1）病院精神医療（身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む）
　2）精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）
　3）地域精神医療

［参考文献］

適時提示する予定

＜９７Ｓ生対象＞

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
精神保健学		通　期	４単位	郭　麗月

［講義概要・学習目標］

1　精神保健についての基本知識について理解させる。
2　ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。
3　精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。
4　地域精神保健と地域保健について理解させる。
5　諸外国における精神保健の概要について理解させる。
6　関連法規および施設について理解させる。

［講義計画］

1 精神保健についての基本知識
　1）精神保健の概要
　2）精神保健の意義と課題
2 ライフサイクルにおける精神保健
　1）胎児期および乳幼児期における精神保健
　2）学童期における精神保健
　3）思春期における精神保健
　4）青年期における精神保健
　5）成人期における精神保健
　6）老年期における精神保健
3 精神保健における個別課題への取り組み
　1）精神障害者対策
　2）老人性痴呆疾患対策
　3）アルコール関連問題対策
　4）薬物乱用防止対策
　5）思春期精神保健対策
　6）地域精神保健対策
　7）ターミナルケアと精神保健
4 精神保健活動の実際
　1）家庭における精神保健
　2）学校における精神保健
　3）職場における精神保健
　4）地域における精神保健
5 地域精神保健と地域保健
　1）地域精神保健施策の概要
　2）地域保健施策の概要
　3）関係法規
　4）関連施策
6 諸外国における精神保健

［成績評価の方法］

レポート、定期試験

［参考文献］

適時紹介する。

［教科書］

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編
精神保健福祉士養成セミナー　第２巻　『精神保健学』　（へるす出版）

＜９７Ｓ生対象＞

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
医学一般		通　期	４単位	郭　麗月

［講義概要・学習目標］

1　人体の基本的な構造や機能について理解させる。
2　臨床医学の各分野の概要について理解させる。
3　医学的リハビリテーションの概要について理解させる。
4　現代社会の代表的な疾患について理解させる。
5　公衆衛生の概要を理解させる。
6　保健医療対策の概要を理解させる。
7　医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。
8　社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

［講義計画］

1　人体の構造・機能
2　一般臨床医学（内科、外科、整形外科、神経・精神科等）の概要
3　医学的リハビリテーションの概要
4　現代社会と疾病
　1）がん、生活習慣病
　2）各種感染症
　3）神経・精神疾患
　4）先天性疾患
　5）難病
　6）その他
5　公衆衛生の現状
　1）人口動態
　2）疾病と受療状況
　3）医療関係者
　4）医療施設
6　保健医療対策の現状
7　医事法制と保健・医療機関及び専門職
　1）医療法、医師法、保健婦助産婦看護婦法等、医事法制の概要
　2）保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方

［成績評価の方法］

レポート、定期試験の成績で評価する。

［参考文献］

適時紹介する。

［教科書］

福祉士養成講座編集委員会編
　社会福祉士養成講座１４「医学一般」（中央法規）

＜９７Ｓ生対象＞

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
精神科リハビリテーション学		通　期	４単位	吉川　郁子

［講義概要・学習目標］

1　精神科リハビリテーションの概念について理解させる。
2　精神科リハビリテーションの構成について理解させる。
3　精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。
4　精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。
5　精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。

［講義計画］

1 精神科リハビリテーションの概念
　1）リハビリテーションの概念と歴史
　2）リハビリテーションの理念、意義と基本原則
　3）精神科リハビリテーションの概念
　4）精神科リハビリテーションの理念と意義
　5）精神科リハビリテーションの基本原則と技法
　6）わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状
2 精神科リハビリテーションの構成
　1）精神科リハビリテーションの対象
　2）精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
　3）精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携
　4）精神科リハビリテーションの施設
　　①病院リハビリテーション施設等
　　②社会復帰施設及びその他の社会資源（小規模作業所、グループホーム、地域生活支援事業など）
　　③精神保健福祉センター及び保健所
　　④その他の協力機関、支援団体
　5）精神科リハビリテーションの関連領域
3 精神科リハビリテーションのプロセス
　1）リハビリテーション計画
　2）アプローチの方法
　　①病院におけるリハビリテーション
　　②社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション
　　③地域におけるリハビリテーション
　3）疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
4 医療機関におけるリハビリテーション
　1）作業療法およびレクリエーション療法
　2）集団精神療法
　3）行動療法
　4）認知行動療法（生活技能訓練を含む）
　5）家族教育プログラム
　6）デイケアおよびナイトケア
　7）精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
5 精神保健福祉士が行うリハビリテーション
　1）精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション
　　①集団精神療法における精神保健福祉士
　　②生活技能訓練における精神保健福祉士
　　③デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士
　　④訪問看護・指導における精神保健福祉士
　2）社会的リハビリテーション
　　①日常生活への適応のための訓練
　　②社会復帰のための相談・助言・指導
6 精神科リハビリテーションの総合化
　1）地域リハビリテーション
　　①地域ネットワーク
　　②ケアマネジメント
　　③地域生活支援事業と訪問援助
　　④家族会および自助グループ
　　⑤ボランティアの育成と活用
　2）職業リハビリテーション
　3）精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション

［成績評価の方法］
通年にわたり数回のレポート提出で理解度を評価する。
必要に応じ、前期・後期に分けて筆記試験を行う。

［教科書］
『精神科リハビリテーション学』　（へるす出版）

［参考文献］
講義の中で随時指示する。

＜９７Ｓ生対象＞

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
精神保健福祉論		通　期	４単位	（前期）柏木　一惠 （後期）栄　セツコ

［講義概要・学習目標］

1　障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。
2　精神障害者の人権について理解させる。
3　精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。
4　精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。
5　精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。
6　精神保健福祉施策の概要について理解させる。
7　精神保健福祉の関連施策について理解させる。

［講義計画］

1 障害者福祉の理念と意義
　1）障害者福祉の理念
　　①障害者福祉の発達
　　②ノーマライゼーション
　　③リハビリテーション
　　④生活の質（ＱＯＬ）
　　⑤生活支援
　2）障害及び障害者
　　①障害の概念
　　②障害分類（国際障害分類を含む）
　　③精神障害の特性
　3）障害者福祉の基本施策
　　①障害者基本法
　　②障害者プラン
　4）現代社会と精神障害者
　　①精神障害者の概念
　　②精神障害者と家族
　　③精神障害者と地域社会
　　④精神障害者のノーマライゼーション
2 精神障害者の人権
　1）精神障害者の権利擁護
　2）精神医療における権利擁護
　3）インフォームドコンセント
　4）地域社会における精神障害者の人権
3 精神保健福祉士の理念と意義
　1）精神保健福祉の歴史と理念
　2）精神保健福祉士の意義
　3）精神保健福祉士の対象
　4）精神保健福祉士の専門性と倫理
4 精神障害者に対する相談援助活動
　1）精神障害者を取りまく社会的障壁（バリアー）
　2）精神障害者の主体性の尊重
　3）相談援助活動の方法
　　①医療施設における相談援助活動
　　②社会復帰施設等における相談援助活動
　　③地域社会における相談援助活動
　4）相談援助活動の事例
5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律
　1）精神保健福祉法の意義と内容
　2）精神保健福祉士法の意義と内容
　3）関連法について
6 精神保健福祉施策の概要
　1）精神保健福祉に関する行政組織
　2）精神保健福祉に係る公的負担制度（公費負担医療等）
　3）精神保健福祉施策の課題
　　①精神障害者福祉対策
　　②社会復帰対策
　4）精神保健福祉における社会資源
　　①精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携
　　②社会資源
7 精神保健福祉の関連施策
　1）雇用・就業（障害者雇用促進法等の概要を含む）
　2）所得保障
　3）経済負担の軽減
　4）生活環境の改善

［成績評価の方法］

［教科書］
『精神保健福祉論』　（へるす出版）

［参考文献］
『我が国の精神保健福祉』　（精神保健福祉ハンドブック）
監修　厚生省大臣官房障害保健福祉部精神保健福祉課
発行　厚健出版株式会社

＜９７Ｓ生対象＞

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
精神保健福祉援助技術各論		通　期	４単位	（前期）瀧本　優子 （後期）中本　明子

［講義概要・学習目標］

1　精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
2　精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
3　精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解させる。
4　精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
5　精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解させる。

［講義計画］

1　精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）
　1）疾病及び障害に配慮した個別援助技術
　2）個別援助技術の実際と適用分野
　3）個別援助技術におけるスーパービジョン
　4）具体的事例検討
2　精神障害者を対象とした集団援助技術（グループワーク）
　1）疾病及び障害に配慮した集団援助技術
　2）集団援助技術の実際と適用分野（生活技能訓練を含む）
　3）集団援助技術におけるスーパービジョン
　4）具体的事例検討
3　精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティーワーク）
　1）地域援助技術の概念と基本的性格
　2）地域援助技術の具体的展開
　　①ノーマライゼーションの推進と住民参加
　　②社会資源の活用と開発
　　③地域社会における連携と調整機能
　　④家族会、自助グループの支援
　　⑤ボランティア等地域マンパワーの育成と活用
　　⑥地域援助
　3）具体的事例検討
4　精神障害者のケアマネジメント
　1）ケアマネジメントの原則
　　①ケアマネジメント
　　②適用と対象
　　③人権への配慮
　2）ケアマネジメントの意義と留意点
　　①ケアマネジメントの意義と留意点
　　②関係機関との連携
　3）ケアマネジメントのプロセス
　　①受理面接（インテーク）
　　②ニーズの把握とその評価
　　③目標設定と計画的実施
　　④包括的サービスの実現
　4）チームケアとチームワーク
　5）具体的事例検討
5　精神障害者援助と関連専門職種との連携
　1）チーム医療における精神保健福祉士の役割
　2）専門職等の役割と機能
　3）チームアプローチ及び生活支援の理念と精神保健福祉士の役割
　4）協力・連携による包括的保健・医療・福祉サービス

［成績評価の方法］

授業中の態度（積極性・能動性等）、出席状況、レポート、期末試験を総合的にみて評価する。

［教科書］

『精神保健援助技術各論』　（へるす出版）

［参考文献］

その都度紹介、提示する。

＜９７Ｓ生対象＞

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
精神保健福祉援助演習		通　期	４単位	郭　麗月

［講義概要・学習目標］

1　精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。

2　学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

［講義計画］

精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法が学生個々人に身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で事例研究およびロールプレイ等を行う。その際、次の点に留意する。

1　実習前においては、少なくとも精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助技術のモデル的な事例を取り上げ、講義の内容を深め、実習の教育効果が上るようにする。
2　演習を通して援助関係の実際及びチーム医療の実践を身につけるようにする。
3　実技指導等
　(1)面接実技指導
　(2)記録実技指導
　(3)集団実技指導
　(4)評価・効果測定実技指導
4　精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。
5　実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。

［成績評価の方法］

出席、課題への取り組み状況、レポートなどで総合的に評価する。

［教科書］

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編
精神保健福祉士養成セミナー　第７巻　『精神保健福祉援助演習』
（へるす出版）

［参考文献］

適時紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
精神保健福祉援助実習	０１ ０２	通　期 通　期	６単位 ６単位	郭　麗月 安原　佳子

［講義概要・学習目標］

1　現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
2　精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質･能力･技術を修得する。
3　職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
4　具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5　関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

［講義計画］

1　実習オリエンテーション
2　視聴覚学習
3　現場体験学習
4　見学実習（急性期病棟など）
5　専門援助技術実習指導
6　リハビリテーション実習指導
7　配属実習
8　全体総括

［成績評価の方法］

全出席（学内・学外）を条件とする。実習記録、実習レポート、実習研究報告、実習先評価を総合して評価する。

［参考文献］

適時紹介する。

［教科書］

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編
精神保健福祉士養成セミナー　第８巻　『精神保健福祉援助実習』
（へるす出版）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
英語音声学		通　期	4 単位	Kevin（ケビン）　R. Gregg（グレッグ）

［講義概要・学習目標］

本授業はつぎの二つの目的をもっている：
（1）音声学と音韻論という、言語学の下位分野の基礎的な概念や原理を学生諸君に学んでもらうこと
（2）その概念や原理を英語の音韻体系に適用してもらうこと
（1）については、例えばつぎの問題を取り上げる：
・人間言語における音（オン）は、どのようにして調音するのか
・ある個別言語では、二つの音が「同じ」か「違う」か、どう決めるのか
・人間言語の可能な音をどう分類すべきか
・発話する際、どのような規則に従っているのか
（2）については、つぎのような、より具体的問題を勉強する：
・英語の音：その記述、その調音のしかた
・英語の音韻体系の主な規則
・英語におけるストレス（強勢）とイントネーション

［講義計画］

［成績評価の方法］

定期試験も複数の小テストも行なう。出席する義務は当然ないが、テキストがないからこそ、出席して念入りにノートをとらなければ、単位がとれる可能性は非常に低くなる。そして授業中私語をしたり眠ったりする学生は、早速除籍される。

［参考文献］

松本裕治ら『言語の科学入門』（『言語の科学、１』）岩波書店、1997

前川喜久雄ら『音声』（『言語の科学、２』）岩波書店、1999

［教科書］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本語教授法Ⅰ		通　期	4 単位	有　川　康　二

[講義概要・学習目標]

どんな教授法（教え方の哲学や方法）にも、どんな教科書にも長所と短所がある。要は様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師にとっての）実践的な文法整理と（学習者にとって）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。

一定の制限された状況（＝教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば、週15時間の約6か月）に日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習を行い「使える日本語」を身につけてもらう為には、教える側に特別の知識と技術が必要となる。

さらに「何故、外国語を学ぶのか、何故、日本語を外国語として教えるのか」といった日本語教育哲学に通ずるような問題意識も持ち続けてほしい。

[講義計画]

＜前期＞
1. こそあど、2. い形容詞・な形容詞、3. 存在、4. 時制、5. ～て、～て、6. ～ている、7. 希望・願望、8. 提案・申し出・勧誘、9. 可能形、10. 経験、11. 意志、12. 許可・禁止
＜後期＞
13. 様態、14. 推量（ようだ・らしい）、15. 理由・原因、16. 逆接、17. ～ている・～である・～ておく、19. 授受動詞、20／21. 受身・使役・使役受身、22. 条件

[成績評価の方法]

出席・筆記試験

[教科書]

東京YMCA日本語学校（編）『入門日本語教授法』（創拓社）

[参考文献]

三浦昭『初級ドリルの作り方』（凡人社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本語教授法Ⅱ	01	前　期	2 単位	友　沢　昭　江

[講義概要・学習目標]

日本語学習者の多様化にそって、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。

本講では、市販されている教科書を分析するとともに、自らも教材を作成します。授業は、前半は講義形式で行い、後半はグループに分かれて自分達想定する学習者を対象とした教材開発を行います。

[講義計画]

前半は、様々な市販の教材の構成を研究します。後半はグループで教材を作成します（基本プランの確定、分担の決定、作業の進捗状況の報告、作成教材を提示し、クラスで評価を行います）。

[成績評価の方法]

講義内容に関する小テストを数回行います。後半のグループ作業の途中経過の報告、最終的な教材の提示、クラスでの評価を総合して全体の評価を行います。半期（１３回）の授業なので、基本的に全回出席した人を評価の対象とします。

[教科書]

特に指定しません。（教員により配付されるプリント等を使用します。）

[参考文献]

『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社）
『教え方の基本』（日本語教育演習シリーズ⑤、丸山敬介、凡人社）
『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』（石橋玲子、凡人社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本語教授法Ⅱ	０２	後　期	２単位	友　沢　昭　江

[講義概要・学習目標]

日本語学習者の多様化にそって、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。

本講では、市販されている教科書を分析するとともに、自らも教材を作成します。授業は、前半は講義形式で行い、後半はグループに分かれて自分達想定する学習者を対象とした教材開発を行います。

[講義計画]

前半は、様々な市販の教材の構成を研究します。後半はグループで教材を作成します（基本プランの確定、分担の決定、作業の進捗状況の報告、作成教材を提示し、クラスで評価を行います）。

[成績評価の方法]

講義内容に関する小テストを数回行います。後半のグループ作業の途中経過の報告、最終的な教材の提示、クラスでの評価を総合して全体の評価を行います。半期（１３回）の授業なので、基本的に全回出席した人を評価の対象とします。

[教科書]

特に指定しません。（教員により配付されるプリント等を使用します。）

[参考文献]

『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社）
『教え方の基本』（日本語教育演習シリーズ⑤、丸山敬介、凡人社）
『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』（石橋玲子、凡人社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本語教授法Ⅲ		通　期	２単位	友　沢　昭　江

[講義概要・学習目標]

本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を総合して、実際の教育の場面で学習者とどのようなインターアクションを行うかという、実践力の養成を目的とします。知識として獲得したことをいかに効果的に提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題をどのように処理するかを、実際の授業形態の中で学びます。そのため、原則として日本語教授法Ⅰおよび日本語教授法Ⅱを終了した人にのみ受講を認めます。

[講義計画]

・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見ること等を通して比較検討します。
・グループに分かれて、基本的な教授内容をいかに実際の教育現場で教えるかを研究し、発表します。
・グループ単位で、実際の授業を組み立て、模擬授業として発表します（二回）。
・留学生とチームを組んで、共同プロジェクトを行います。
・実際の日本語授業を見学したり、夏期休暇中には学外(国内・海外)での教育実習（希望者）を行います。

[成績評価の方法]

・学期初めにノートを作り、毎回の授業の内容をまとめる外、適宜出される課題もそこに書き込み、一カ月に一回程度の割合でノートを提出してもらい、それを出欠を含む、授業への貢献度の材料として判断します。
・グループ単位で行う作業は、学生間の相互評価を行います。（各自が評価表に書き込み、それをクラスで閲覧して、フィードバックとします。）

[教科書]

教員の用意する配付物を使います。

[参考文献]

『日本語教育論集』（吉田彌壽夫監修、学研）
『概説日本語教育』（遠藤織枝編、三修社）
『日本語教授法』（石田敏子、大修館書店）
『実践日本語教授法』（名柄迪監修、中西家栄子他、バベルブックス）
『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』（名柄迪他、アルク）
『日本語教育への道』（土岐哲他、凡人社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
博　物　館　概　論		後期	２単位	種　田　　明

［講義概要・学習目標］

博物館とは何か、その社会的基盤や法的地位、教育的機能などを総合的に講義する。（毎回ＶＴＲを使用する。）日本の博物館の開館数は、１９９７年も約３００館近くに上り、規模やテーマの各種各様の博物館が誕生している。これらの博物館が、研究者のみならず多くの人々に親しまれ活用されるためには、博物館に関する基礎的知識の習得が望まれよう。

博物館法に基づく「学芸員」を志す諸君は、博物館の歴史と現状・博物館における人とのふれ合い（博物館法にいうリクリエーション、社会教育法にいう生涯学習）・博物館のコンセプトや法律などを十分にわきまえ、博物館について楽しみながら学んでほしい。

なお、本学では博物館概論と博物館学各論（４）の２科目６単位を履修し、合格しなければ「博物館実習（３）」の登録はできない。（自由科目としての受講者は、最初に申し出てください。）

［講義計画］

各回４５分「放送大学」のＶＴＲをみて、テーマに関連した講義・解説を行う。新聞・雑誌などからの記事のコピーも交え、博物館の本質について討議できれば、問題の所在が明らかになるであろう。

［成績評価の方法］

博物館見学レポート　２回　（３０％）
試験＜最終講義日＞　（６０％）
出席　（１０％）：欠席５回は受験資格なし

［教科書］

大塚知義『改訂版　博物館学Ｉ』放送大学教育振興会、１９９４年

［参考文献］

講義中に提示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
博物館学各論		通　期	4 単位	水　口　　薫

［講義概要・学習目標］

近年ミュージアム・マネージメントという研究活動領域が拡大している。生涯学習の必要性と相まって博物館への関心は高く、博物館でも教育・福祉・援助・環境保護などあらゆることにマネージメント感覚が求められている。

本講義では「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館情報論」を内容とする。

博物館機能の構成要因の一つである博物館経営、博物館資料の収集・保管・展示等についての基礎知識の習得、調査・研究、教育普及活動および情報の意義と活用方法についての理解を図る。適時ビデオ資料を使用する。

［講義計画］

（前期）「博物館経営論」
1　博物館の機能、組織、施設の基本的な考え方
2　ミュージアム・マネージメント、教育普及活動
「博物館資料論」
1　博物館資料の概念、収集、整理、保管、記録化
2　博物館資料の保存、展示（常設展示、企画展示）
（後期）　3　資料調査、研究活動の意義と方法、基礎知識
「博物館情報論」
1　博物館における情報の意義、提供について
2　教育普及、情報、インターネットの活用方法

［成績評価の方法］

出席を兼ねた小テスト（適時）とレポート、定期試験にて総合評価。前・後期とも欠席6回の者は名簿抹消。

［教科書］

大堀　哲・小林達雄・端　信行・諸岡博熊（編）
『ミュージアム・マネージメント　博物館運営の方法と実践』
（東京堂出版　1996年）
加藤有次・椎名仙卓（編）『博物館ハンドブック』
（雄山閣　1993年（3版））

［参考文献］

適時、プリントを配布。
その他、講義の時に提示する。

《インテグレーション科目》

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
博物館実習Ⅰ		９月集中	１単位	松永　俊男

［講義概要・学習目標］
博物館資料の取り扱いや展示に関する基礎的なことを大学内で実習する。分野ごとに専門の教員が分担して指導する。
予定している実習は、「博物館資料の測定と作図」、「文書資料の取り扱い」、「土器の復元」、「顕微鏡観察」、および「パソコンを利用した視聴覚資料の作成」である。

［講義計画］
９月の集中講義期間内に、５日間、連続で実施する。
詳細な日程は、追って発表する。

［成績評価の方法］
全出席が原則である。おもに実習ノートによって評価する。

［教科書］

［参考文献］

《インテグレーション科目》

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
博物館実習Ⅱ		集中コース	１単位	松永　俊男

［講義概要・学習目標］
博物館の多様性を理解するために、各種の博物館において見学研修を行う。専任教員が交代で引率し、出席の確認をする。土曜、日曜、または休暇中に実施する。総計で１２回、実施するが、そのうち４回は両コース共通、コース別にそれぞれ４回である。

［講義計画］
日程の詳細は追って発表するが、予定している博物館は下記の通りである。
両コース共通：和泉市いずみの国歴史館、和泉市久保惣記念美術館、
国立民族学博物館、滋賀県立琵琶湖博物館。
産業文化コース：交通科学博物館、ガス科学館、ＵＣＣコーヒー博物館など。
東洋文化コース：大阪府立弥生文化博物館、堺市博物館、大阪城天守閣など。

［成績評価の方法］
おもに実習ノートによって評価する。

［教科書］

［参考文献］

《インテグレーション科目》

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
博物館実習Ⅲ		集中コース	1単位	松永　俊男

［講義概要・学習目標］
指定した博物館で5日間程度の館務実習を行う。実習先の博物館としては、高野山霊宝館、和泉市いずみの国歴史館、堺市博物館、トヨタ博物館、産業技術記念館、ガス科学館、などを予定している。

［講義計画］
4月のガイダンス時に、各人の実習博物館の指定を行う。実習は夏期休暇中に行われるが、その具体的日時や実習内容は、博物館によって大幅に異なる。

［成績評価の方法］
実習館の評価表と実習ノートに基づいて行う。

［教科書］

［参考文献］

「大学英語入門A」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01	横山三鶴	〈スポーツ推薦クラス〉	染谷正一 Paul Murrav Fred Ferrasci共著	*12 American Hit Movies* 『米国のヒット映画12』 *12 American Hit Movies* *: Listening work book*	英宝社
11	岡田章子	経済 〈再履修クラス〉	Takuji Shimada	*Short Listening for Travel*	成美堂
12	Andrew S. Obermeier	経済 〈再履修クラス〉	Kiggell et al.	*Cubic Listening : Puzzle it Out*	Macmillan Language House
13	佐々木英哲	経済 〈再履修クラス〉	Smillie 根間 佐藤公雄	*TOEFL-Style* *Listening Helper 20* *Surviving Troubles Abroad* 海外旅行ミニ英会話 ートラブルに出会った時ー	英潮社 成美堂
14	清水真一	経済 〈再履修クラス〉	Joan McConnell	*Language and Culture in the 21st Century*	成美堂
15	萬戸克憲	経済 〈再履修クラス〉	Kanel	*Pop Song Listening*	成美堂
16	上村淳子	経済	熊井信弘 Stephen Timson	*Hit Parade Listening*	Macmillan Language House
17	Daniel M. Walsh	経済	Gershom S. Mares C.	*Sound Bytes Book 1*	Prentice Hall
18	Daniel M. Walsh	経済	Gershom S. Mares C.	*Sound Bytes Book 1*	Prentice Hall
19	後藤正次	経済		プリント使用	
20	後藤正次	経済		プリント使用	
21	Jeffrey Herrick	経済	Michael Rost And Munetsugu Uruno	*Strategies in listening*	Macmillan Language House
22	前田淑江	経済	Rex A. Tanimoto他	*Uncle Rex's Story telling Time*	大阪教育図書
23	前田淑江	経済	Rex A. Tanimoto他	*Uncle Rex's Story telling Time*	大阪教育図書

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
24	本山道子	経済	Dale Fuller	*Face to Face*	Macmillan Language House
25	本山道子	経済	Dale Fuller	*Face to Face*	Macmillan Language House
26	山科美和子	経済	Kanel, Kim R.	*Enjoy Pop Songs* その他、授業時に指示。	成美堂
27	渡邊眞理子	経済	Dale Fuller Clyde W. Grimm	*Airwaves*	Macmillan Language House
28	横山三鶴	経済	熊井信弘 Stephen Timson 共著	*HIT PARADE LISTENING* *: Developing Listening Skills* *Through Rock and Pop*	Macmillan Language House
31	金城盛紀	社会 〈再履修クラス〉	大月　実編	*News for You*	成美堂
32	野原康弘	社会 〈再履修クラス〉		最初の授業で指示する。	
33	山科美和子	社会 〈再履修クラス〉	Kumai, N. Timson, S.	*Hot Beat Listening (1)*	Macmillan Language House
34	木村博是	社会	S. J. Berman T. O'Brien	*Topic by Topic, TOEIC Listening* *Clearly Britain, chearly Japan*	成美堂 南雲堂
35	木村ゆみ	社会	西本典生	*VOA Science for tomorrow*	金星堂
36	坂本姫子	社会	M. Rost N. Kumai	*PROGRESS in listeing*	Lingual House
37	清水真一	社会	Ashley Montague	*On Being Intelligent*	成美堂
38	高見有彦	社会	西本　徹 Barbara Wells	*Listen to the Voices of the World*	金星堂
39	西崎和子	社会	小林栄智監修 Kaye Flanigan	*Practice in English Reduced Forms* *Focus on Listening Part II*	三修社 松柏社
40	西崎和子	社会	小林栄智監修 Kaye Flanigan	*Practice in English Reduced Forms* *Focus on Listening Part II*	三修社 松柏社
41	橋本英司	社会		プリント教材	

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
42	Carlquist L. Harris	社会	Molinsky Bliss	*Express Ways 2*	Prentice Hall Regents
43	萬戸克憲	社会	Kumai & Timson	*Hot Beat Listening* *Understanding Rock & Pop BK2*	Macmillan Language House
51	小野良子	社会福祉	岡　秀夫	*On the Air USA*	成美堂
52	髙見有彦	社会福祉	西本　徹 Barbara Wells	*Listen to the Voices of the World*	金星堂
53	遠山　淳	社会福祉	TIMOTHY KIGGELL HELEN DONALD	*CUBIC LISTENING* *Surprise, Surprise*	Macmillan Language House
61	大橋範子	経営 〈再履修クラス〉	Shari J. Berman	トピック別トーイックリスニング	成美堂
62	中村祥子	経営 〈再履修クラス〉	Dale Fuller Linda Fuller共著	*Essential Listening (1)* *—Working with Numbers*	Macmillan Language House
63	Philip Billingsley	経営 〈再履修クラス〉		使用しない。	
64	日下隆平	経営	Terry O'Brien	*Clearly Britain, Clearly Japan*	南雲堂
65	金城盛紀	経営	熊井・Timson	*Hot Beat Listening (2)*	Macmillan Language House
66	小野良子	経営	岡　秀夫	*On the Air USA*	成美堂
67	佐々木英哲	経営	Berman Bratton Brown Hayasaka 佐藤公雄	*Topic by Topic TOEIC Listening* トピック別トーイック・リスニング *First Time Abroad* 初めての海外旅行	成美堂 成美堂
68	島田勝正	経営	Jack. C. Richards	*BASIC Tactics for Listening*	Oxford University Press
69	釣井千恵	経営	Steven Gershon Chris Mares Shari J. Berman, et al.	*Sound Bytes 1 : Listening for Today's World.* *Topic by Topic TOEIC Listening*	Prentice Hall 成美堂

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
70	中井紀明	経営	Andrew Bennetto 他	*Our World : Protecting the Environment*	Macmillan Language House
71	野原康弘	経営	B. Smillie	*Listening Workout*	南雲堂
72	David T. Van Ham	経営	Dale Fuller Timothy Kiggell	*Airwaves* *Cubic Listening : Puzzle It Out*	Macmillan Language House
73	横町治子	経営	Steven Gershon	*Sound Bytes 1*	Prentice Hall ELT
81	川上与志夫	英語英米 〈再履修クラス〉	Kimberly Forsythe 成毛信男	*Listen up!*	三修社
82	上村淳子	英語英米	Timothy Kiggell	*Wonderful USA*	Macmillan Language House
83	石塚浩司	英語英米	Nicholas Sampson	*Move Ahead*	Macmillan Language House
84	山科美和子	英語英米	Kumai, N. Timson, S.	*Hot Beat Listening (1)*	Macmillan Language House
91	Daniel M. Walsh	国際文化 〈再履修クラス〉	Gershom S. Mares C.	*Sound Bytes Book 1*	Prentice Hall
92	Louise Pender	国際文化 〈再履修クラス〉	Wilson, Warren Barnard, Roger	*Fifty-Fifty (1992 1st edition)*	Prentice Hall
93	荒山初子	国際文化	石田雅近 他	*Step-up Interactive Listening*	金星堂
94	岩永道子	国際文化	TIMOTHY KIGGELL	*Wonderful USA—A Video Approach to English Learning Through Personal Interviews*	Macmillan Language House
95	木村博是	国際文化	S. J. Berman T. O'Brien	*Topic by Topic, TOEIC Listening* *Clearly Britain, Clearly Japan*	成美堂 南雲堂
96	都築郷実	国際文化	Helen Donald Timothy Kiggell	*Listening Challenge*	Macmillan Language House